

京都市内遺跡立会調査概報

平成5年度

京 都 市 文 化 観 光 局

序

京都は、恵まれた自然環境の中で幾多の歳月と歴史を積み重ねて、今年建都1200年という輝かしい節目を迎えました。

平安京の造営以来、常に日本文化の先導的な役割を果たすべく、限り無い創造を続けてまいりました先人の足跡を示す多くの文化遺産は、時代の変貌により今は地上から姿を消して、埋蔵文化財として地中に深く眠っています。

しかし、この貴重な埋蔵文化財も最近の著しい都市の開発に伴い、重大な危機を迎えようとしています。

私達の先人が残した、かけがえのない価値を持った埋蔵文化財を、できるだけ保存して現在の生活の中に活用し、後世の人に伝えることが、現代に生きている私達に課せられた大切な責務であると考えています。

本書は、京都市が平成5年度に文化庁の国庫補助を得て実施した、埋蔵文化財調査の概要報告書であります。

立会調査、発掘調査につきましては、本市が（財）京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであり、試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施したものであります。

終わりに、発掘調査にご協力いただいた市民の方々及びご指導・ご助言をいただいた関係者の方々に心から感謝いたしますとともに、本報告書が少しでも京都の歴史を知るための資料として皆様のお役にたてれば幸いです。

平成6年3月

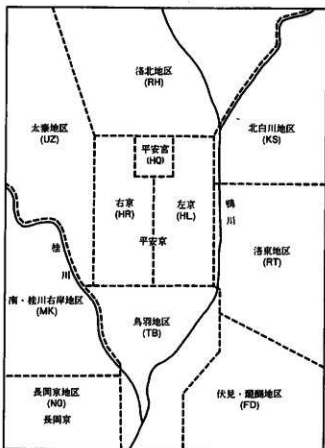
京都市文化観光局

例 言

- 1 本書は京都市文化観光局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助を伴う平成5年度の京都市内遺跡立会調査概要報告である。
- 2 原稿の執筆分担は以下のとおりである。
I 本張八郎 II-1・5、III-1 吉本健吾 II-2 平田泰
II-3・6・7、III-3・4・5 尾藤德行
II-4・8・9 III-2・6 竜子正彦
その他に、伊藤源、川村雅章、小松武彦、小増山一良、吉村正規が分担執筆し、個々の文責は各文末に明示した。
- 3 写真撮影は、遺構を各報告者、遺物写真を村井伸也と幸明綾子が担当した。
- 4 京都市遺跡発掘調査基準点を使用し測量を行った。座標は平面直角座標系VIである。座標の数値はm単位で、標高は海拔高(T.P)である。
- 5 本書の編集と調整は本があたり、整理・作成作業は各報告者、近藤章子、端美和子のほかに北川和子、宮下則子が参加した。
- 6 本書に使用した遺構の略記号は奈良国立文化財研究所の用例に従った。
- 7 本書に掲載した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図(縮尺:1/2500)を複製して調整したものです。
平安宮跡 図版3 8000分の1(聚楽廻、壬生)
平安京跡 図版4~13 10000分の1(花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅)
白河街区、岡崎遺跡 図版14 10000分の1(御所、吉田、三条大橋、岡崎)
鳥羽離宮跡 図版15 10000分の1(城南宮、竹田、下鳥羽、丹波橋)
平安宮式部省 図1 5000分の1(壬生)
右京三条一坊八町 図3 5000分の1(壬生)
右京五条二坊十四町 図6 5000分の1(西京極)
左京四条四坊九町 図11 5000分の1(三条大橋)
左京五条二坊八町 図14 5000分の1(壬生・島原)
左京五条三坊五町 図20 5000分の1(五条大橋・島原)

- 左京六条三坊七町 図24 5000分の1 (五条大橋)
- 左京八条二坊一町 図28 5000分の1 (梅小路・島原)
- 左京九条四坊五町 図32 5000分の1 (京都駅)
- 仁和寺院家跡 図36 5000分の1 (鳴滝)
- 六勝寺跡 図40 5000分の1 (岡崎)
- 六波羅政庁跡 図44 5000分の1 (五条大橋)
- 法住寺殿跡 図49 5000分の1 (京都駅)
- 伏見城跡 図52 5000分の1 (中書島)
- 下鳥羽遺跡 図58 5000分の1 (下鳥羽)

地区設定図



本文目次

I	調査概要	1
II	平安宮・京跡	
1	平安宮式部省跡 (93H Q 243)	3
2	右京三条一坊八町・観倉院 (92H R 415)	5
3	右京五条二坊十四町 (93H R 109)	11
4	左京四条四坊九町 (93H L 253)	13
5	左京五条二坊八町 (93H L 39)	15
6	左京五条三坊五町 (93H L 96)	19
7	左京六条三坊七町 (93H L 305)	23
8	左京八条二坊一町 (92H L 352)	26
9	左京九条四坊五町隣接地 (93H L 228)	29
III	その他の遺跡	
1	仁和寺院家跡 (93U Z 5)	33
2	六勝寺跡 (93K S 173)	38
3	六波羅政庁跡 (93R T 225)	40
4	法住寺殿跡 (93R T 176)	43
5	伏見城跡 (93F D 251)	45
6	下鳥羽遺跡 (92T B 325)	49

図版目次

- 図版1 平安京園葉分割図
図版2 平安宮城概念図
図版3 平安宮
図版4 右京北辺一・二・三条 三・四坊
図版5 右京北辺一・二・三条 一・二坊
図版6 左京北辺一・二・三条 一・二坊
図版7 左京北辺一・二・三条 三・四坊
図版8 右京四・五・六・七条 三・四坊
図版9 右京四・五・六・七条 一・二坊
図版10 左京四・五・六・七条 一・二坊
図版11 左京四・五・六・七条 三・四坊
図版12 右京八・九条 三・四坊 左京八・九条 一・二坊
図版13 右京八・九条 一・二坊 左京八・九条 三・四坊
図版14 白河街区跡
図版15 鳥羽離宮跡
図版16 平安宮式部省 (93H Q 243) 出土遺物
図版17 平安京右京三条一坊八町 (92H R 415)
図版18 平安京左京四条四坊九町 (93H L 253) 出土遺物
図版19 平安京左京五条二坊八町 (93H L 39)
図版20 平安京左京五条二坊八町 (93H L 39) 出土遺物
図版21 平安京左京五条二坊八町 (93H L 39) 出土遺物
図版22 平安京左京五条三坊五町 (93H L 96)
図版23 平安京左京五条三坊五町 (93H L 96) 出土遺物
図版24 平安京左京六条三坊七町 (93H L 305)
図版25 平安京左京六条三坊七町 (93H L 305) 出土遺物
図版26 平安京左京八条二坊一町 (92H L 352)
図版27 平安京左京八条二坊一町 (92H L 352) 出土遺物

- 図版28 平安京左京九条四坊五町隣接地 (93H L 228)・出土遺物
- 図版29 仁和寺院家跡 (93U Z 5)
- 図版30 仁和寺院家跡 (93U Z 5) 出土遺物
- 図版31 六勝寺跡 (93K S 173)・出土遺物
- 図版32 六波羅政庁跡 (93R T 225)・出土遺物
- 図版33 六波羅政庁跡 (93R T 225) 出土遺物
- 図版34 法住寺殿跡 (93R T 176)・出土遺物
- 図版35 伏見城跡 (93F D 215)
- 図版36 伏見城跡 (93F D 215) 出土遺物
- 図版37 伏見城跡 (93F D 215) 出土遺物
- 図版38 下鳥羽遺跡 (92T B 325)
- 図版39 下鳥羽遺跡 (92T B 325) 出土遺物
- 図版40 下鳥羽遺跡 (92T B 325) 出土遺物

挿 図 目 次

図1 調査位置図	3	図15 遺構位置図	15
図2 軒平瓦拓影・実測図	4	図16 遺構(井戸)断面図	16
図3 調査位置図	5	図17 遺物実測図	17
図4 遺構平面図	6	図18 遺物実測図	18
図5 調査区配置図	8	図19 軒平瓦拓影・実測図	18
図6 調査位置図	11	図20 調査位置図	19
図7 遺構位置図	11	図21 遺構位置図	19
図8 遺構断面図	11	図22 遺構断面図	19
図9 木器実測図	12	図23 遺物実測図	21
図10 ナスビ形木器	12	図24 調査位置図	23
図11 調査位置図	13	図25 遺構位置図	23
図12 遺構断面図	14	図26 遺構断面図	24
図13 土師器Ⅲ	14	図27 遺物実測図	25
図14 調査位置図	15	図28 調査位置図	26

図29 調査断面位置図	26	図48 木器実測図	41
図30 遺構断面図	27	図49 調査位置図	43
図31 遺物実測図	28	図50 遺構断面模式図	44
図32 調査位置図	29	図51 遺物実測図	44
図33 断面位置図・遺構配置図	30	図52 調査位置図	45
図34 遺構断面図	30	図53 遺構位置図	45
図35 遺物実測図	31	図54 遺構断面図	45
図36 調査位置図	33	図55 遺物実測図	46
図37 遺構位置図	34	図56 軒瓦瓦拓影・実測図	47
図38 遺構（井戸）断面図	35	図57 軒瓦、道具瓦拓影・実測図	48
図39 遺物実測図	36	図58 調査位置図	49
図40 調査位置図	38	図59 調査地点位置図	50
図41 遺構断面図	38	図60 各地点遺構図	50
図42 軒瓦拓影・実測図	39	図61 B地点遺構実測図	51
図43 No.3 地点出土遺物	39	図62 遺物実測図	52
図44 調査位置図	40	図63 遺物実測図	54
図45 遺構位置図	40	図64 弥生土器	55
図46 遺構断面図	40	図65 石鍬実測図	55
図47 遺物実測図	41		

表 目 次

調査一覧表	57
-------	----

I 調査の概要

本書では、平成5年1月4日から平成5年12月28日までの間に実施した立会調査の概要を報告する。本年度の立会調査の総件数は435件である。京都市内を便宜上11地区に分けて実施したその内訳は、平安宮地区(HQ)82件、平安京右京地区(HR)68件、平安京左京地区(HL)102件、太秦地区(UZ)9件、洛北地区(RH)17件、北白川地区(KS)31件、洛東地区(RT)36件、伏見・醍醐地区(FD)34件、鳥羽地区(TB)25件、南・桂川右岸地区(MK)11件、長岡京地区(NG)20件である。

ここでは、本年度の調査で得られた成果について、以下に地区別にその概略を述べる。

平安宮地区(HQ) 平安宮域では比較的小規模な住宅建築工事に伴う調査が多く、したがって掘削深も30~50cmと浅く、平安時代の遺構面に至らない場合が多い。そのなかで内裏・中和院・太政官跡など6箇所遺構・遺物を検出している。式部省跡(93HQ243)では平安時代の遺構から瓦を採取しており、その一部を本書に掲載している。

平安京右京地区(HR) 平安時代の遺構には、九条三坊一丁で井戸3基を検出しており、その他は湿地状堆積の遺物包含層が各所で認められた。湿地については昨年度の「立会調査概報」で五条以南八条間に広大な湿地が存在することを報告したが、今年度は、淳和院跡の南一帯に推定されるいわゆる「小泉」地に符合して湿地あるいは流路状の堆積が認められた。また、比較的調査例の少なかった推定観音院跡の調査(92HR415)では、平安時代の遺構を、五条二坊十四町(93HR109)では古墳時代の木器を検出しており本書に掲載している。

平安京左京地区(HL) 左京域は右京域に比べほぼ2倍近くの調査件数がある。また1箇所の調査地での遺構、遺物の内容も平安時代から江戸時代におよぶ例が多い。弥生・古墳時代の遺物は6箇所検出しており、これらはいずれも同時代の遺跡である烏丸御池遺跡、烏丸綾小路遺跡のほぼ範囲内である。平安時代の遺構には土塹、路面、御溝、池状遺構などがあり、井戸は5基検出し良好な一括資料を得ている。本書では、四条四坊九町(93HL253)の「茶陶」、五条二坊八町(93HL39)の井戸内出土遺物、五条三坊五町(93HL96)の弥生土器、六条三坊七町(93HL305)の飛鳥時代の土器、八条二坊一町(92HL352)の猪俣小路関連の遺構、遺物、九条大路の隣接地(93HL228)で検出した古墳時代の竪穴住居址などについて掲載している。

木楽地区(UZ) この地区での調査件数は少ないが、仁和寺院家跡の調査(93UZ5)では井戸や池状遺構を検出しており、本書に掲載している。

洛北地区(RH) この地区では植物園北遺跡での調査例は多いが、平安時代の土壌を検出したのみである。その他の遺跡でも顕著な遺構の検出はない。

北白川地区(KS) 北白川廃寺跡で飛鳥～奈良時代の遺物包含層、岡崎遺跡で弥生土器を検出しており、本書では六勝寺跡(93KS173)で出土した瓦類を掲載している。

洛東地区(RT) この地区では六波羅政庁跡(93RT225)で平安後期の溝、法住寺殿跡(93RT176)で近世の井戸を検出しており本書に掲載している。

伏見・醍醐地区(FD) この地区では伏見城跡の調査が主体である。伏見城跡の2箇所(93FD87)・(93FD183)では平安時代、奈良時代の遺物包含層を確認している。同じく(93FD251)では金箔瓦が多く出土しており、本書に掲載している。

鳥羽地区(TB) 鳥羽離宮跡に位置する現安楽寿院では旧築地に伴う石段を検出している。また下鳥羽遺跡では弥生時代の遺構・遺物を2箇所で見出しており、本書では(92TB325)の調査で出土した弥生土器の一部を掲載している。

南・桂川右岸地区(MK)、長岡京地区(NG) MK地区では上久世・中久世遺跡の調査が主であったが特筆すべき成果は得られなかった。NG地区の長岡京跡では流路や遺物包含層を若干例確認している。また淀城跡では堀の一部や柱穴列を検出している。

以上が本年度の立会調査で得られた主要成果の概要である。平安京域では、単独の遺構発見の他に広範な調査地点の集積によって自然地形、たとえば湿地の範囲などの推定、また大路・小路路面の残存状況からその地域における使用頻度・整備回数等が解明できるまでに至っている。近年の立会調査対象地は、市街地の再開発に伴う工事以外に郊外の住宅地に及んでいる。平安京域外に点在する諸遺跡の遺跡範囲は明確でないものも多く、その枠外での遺構・遺物の発見が広がりを見せている。今回は、平安京隣接地として実施した調査(93HL228)では、明確な古墳時代の遺構を検出、下鳥羽遺跡(92TB325)の調査では、過去の調査資料とあわせて遺跡の範囲をさらに明確にできた。今後、遺跡範囲をさらに詳細に把握することが山城盆地の歴史を解明する為には欠かせない条件となろう。

II 平安宮・京跡

1 平安宮式部省 (93HQ243)

調査経過

1993年10月4日、中京区西ノ京式部町20-2番地において住宅建築工事に伴う立会調査を行った。当該地は平安宮式部省の推定地にあたり、敷地西側に式部省の西限築地が想定される。調査区の北東にある二条中学校での発掘調査^{註1}では、民部省の南側築地が検出されており、当調査区でも築地の検出に期待がかかった。しかし調査の結果は直接築地に関する遺構は検出できず、奈良時代から平安時代の大量の瓦を含む不定形の土壌を検出したにとどまった。出土した瓦の中には、多量の平・丸瓦の他に鬼瓦、軒平瓦が含まれていた。

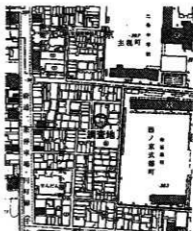


図1 調査位置図 (1/5,000)

遺構・遺物 (図版16、図2)

大量の瓦片を伴った土壌は、敷地の南部分で炭を含む暗灰黄色砂泥の近世層の下層(地表下50cm)から検出した。土壌の形状は不定形で最大幅1.7m以上・深さ18cm以上を測る。出土した瓦類には、鬼瓦(1点)、軒平瓦(4点)、平・丸瓦の破片がある。

鬼瓦(1) 鬼の顔の向かって左側の牙(犬歯)とその隣の歯(側切歯)の部分から周縁(内から連珠文・面違い縞状文の帯)にかけての破片である。牙の部分に范傷がみられる。裏面までの厚さは、牙の部分で7.1cmを測る。胎土は多くの砂粒を含み、焼成は良好、灰色を呈する。

軒平瓦(2) 平城宮式6663C形式の均整唐草文の瓦当右側部分の破片である。焼成が甘く摩滅のために分かりづらいが、文様部に斜め方向に縄目叩き痕がみられる。胎土は細かい砂粒、雲母を含み、灰白色を呈する。

軒平瓦(3) 平城宮式6691A(具範)^{註2}形式の均整唐草文の瓦当中央から右側部分の破片である。瓦当部の范押しは浅く、右側は范ずれを起こしている。横方向に多数の細かい范

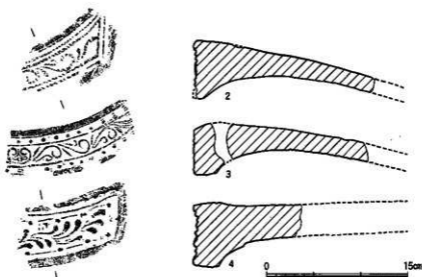


図2 軒平瓦拓影・実測図 (1/4)

傷がみられる。平瓦部凸面には瓦頂部に向かって縦方向の縄目叩き痕がみられるが、顎部寄りの叩き痕の最後の部分に幅3.3cmの横方向の縄目叩き痕がみられる。胎土は細かい砂粒を含み、焼成は良好、灰オリーブ色を呈する。

軒平瓦(4) 『平安京古瓦図録』^{註1}412の均整唐草文の瓦当右側部分の破片である。川上瓦窯で生産されたもので瓦当の左上の部分に「河」の字の陽刻がみられる。平瓦部凹面の布目痕の目は寛く、瓦当上面は寛く面取りを行う。胎土は小石を多量に含み、焼成は良好、灰色を呈する。

註1 木下保明他『民部省』昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要 京都市埋蔵文化財研究所 1983年

註2 『平城宮出土軒瓦型式一覧』奈良国立文化財研究所 1978年

註3 平安博物館『平安京古瓦図録』雄山閣出版 1977年

2 右京三条一坊八町・穀倉院 (92H R 415)

調査経過

中京区西ノ京星池町で二条駅地区土地区画整理事業に伴う星池公園整備工事が実施された。工事対象地は平安京右京三条一坊八町・穀倉院に比定され京内でも極めて重要な官司とされている。調査は二時期に分けて実施した。初回は1993年2月18日から2月20日、二回目は同年3月18日から3月24日にかけて実施した。工事は公園の四周を幅約2mで掘取り、擁壁工事を行うもので、工事掘削作業と連携した調査を実施できた。工事掘削作業による盛土の除去後、遺構検出、記録作業に必要な時間を確保し順次調査を行った。調査面積はそれぞれ $2 \times 80 = 160\text{m}^2$ 、 $2 \times 30 = 60\text{m}^2$ を測った。調査の結果、弥生時代の遺構、古墳時代後期の遺物、平安時代の遺構多数を検出した。



図3 調査位置図 (1/5,000)

調査の結果、弥生時代の遺構、古墳時代後期の遺物、平安時代の遺構多数を検出した。

遺 構 (図版17、図4)

調査区の堆積土層は、近・現代に属する盛土層、江戸時代の耕作土層・床土層合わせて30cmの下層に約5cmの平安時代に属する遺物包含層が堆積する。柱穴等の遺構成立面はやや礫を混入した黄褐色砂泥層で、これは無遺物層の地山と考えられる。

検出した遺構には、弥生時代後期の土器を含む溝 (SD1)、平安時代前期から後期にかけての柱穴、遺物包含層、室町時代に属する溝、土壌、江戸時代以降の溝 (SD2) 等がある。

弥生時代後期に属する溝は、公園南側調査区を北東から南西方向に横切って検出された。幅40cm、深さ20cmを測る。出土土器量は少ない。

平安時代の柱穴は径60cmを越えるやや大型で方形を呈したものの、同じく方形で径30~40cm前後のもの、円形で20~30cm前後のものが検出されている。方形を呈したものが前期から中期にかけて、円形のもの中期から後期と考えることができるが、径60cmを越える大型方形の柱穴からは12世紀代に属した遺物の出土があり、門柱等の別用途の構造物に使用された柱穴の可能性もある。遺物包含層は公園南側調査区に集中しており、平安時代前期

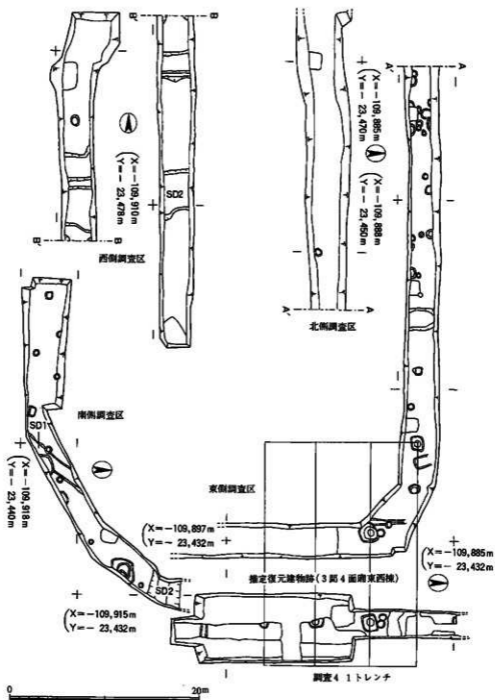


図4 遺構平面図 (1/200)

から中期の土器、瓦類を含んでいる。また押小路比定地内に柱穴多数を検出し、この付近での押小路非設置を裏付けた。

江戸時代に属する溝は公園南東角に検出した。東西方向溝で、幅90cm、深さ50cmを測る。この溝は公園西側調査区でも検出しており、耕作関係に利用された水路と考えることができる。

遺物

調査で検出した遺物には、弥生時代後期に属する土器、古墳時代後期に属する須恵器杯片、平安時代前期から後期に属する土師器皿・甕、須恵器杯・壺・甕、緑釉陶器椀、灰釉陶器椀、黒色土器椀、瓦器椀、陶器鉢、瓦片、江戸時代に属する陶器甕、染付磁器椀・皿、瓦片等が出土しているが、全体に量は少ない。

弥生時代の土器は公園南側調査区溝（SD1）から出土したもので、畿内第IV様式に属する。古墳時代後期の須恵器杯は、公園西側調査区から出土した。7世紀前半の時期に属するが同時期の遺構に伴うものではなく、江戸時代の耕作土層からの出土である。

平安時代前期から後期にかけての遺物は、各柱穴、遺物包含層からの出土であるが、全体に遺物の出土量は少ない。しかし瓦類の出土量は平安京内他地区の調査事例の結果と比較すれば、やや多いといえる。

まとめ（図5）

右京三条一坊・二・七・八町、穀倉院比定地に関する主要な調査は本調査を含めてすでに9件に及んでおり、他に建築工事に伴う立会調査も3例が報告されている。

調査2では二町地西南部で調査を実施し、平安時代前期に属した三条坊門小路南北両側溝、路面、北築地内溝を検出している。また平安時代後期の同小路北側溝、路面、北築地内溝の検出もあり、後期に至るまで小路としての機能を保つことを明らかにした。また官制的な特徴を持つ搬入瓦や緑釉瓦等の豊富な瓦類、平安時代前期の土器類の出土があり、穀倉院の復原に一步を迫った成果を挙げている。

調査4は八町地東南部で調査を実施し、柱穴、遺物包含層を発見した。これは穀倉院を構成した建物、櫓等の最初の発見となった。この成果を受けて本調査・調査6が実施され、建物、溝、土壌等の新たな検出が行われ成果の拡大がはかられた。

調査7は二町地西北部一帯で実施された。この調査では平安時代の遺構ベースとなる黄色粘土層が広範な地域で認められること、瓦を含めた平安時代前期の土器類が出土すること、押小路、西坊城小路施設の痕跡が発見されないこと等、穀倉院内の施設配置や敷地規



图5 調査区配置图 (1/2,000)

模を確定する重大な問題を提起した調査となった。

調査8は七町地北東部で実施された。この調査は本調査の南側にあっており、建て替え痕跡の確認できる建物跡を数棟分、土壌、井戸等を検出し、建物群の密集する様相を明らかにしている。調査9は一町地北部、二条大路推定地の調査を現在実施中である。

穀倉院は大同年中(806~809)に設置され、その活動を開始した。当初、畿内諸国の調餼、無主位職田、没官田、大宰稻等の収納・貯穀を行い、京内窮民に賑給する非常貯穀倉としての役目を負っていた。しかし平安時代前期後半には律令体制の弛緩に伴った各官司の形骸化、機能低下を受けて、逆にその安定した財源性が注目され、贈物料、学問料、京中賑給、造道橋料から饗饌、年中行事、臨時行事の供進の役目まで負うに至って、穀倉院は活動の盛期を迎える。弘仁十三年(822)には近江諸郡の穀十萬斛を院内に収納したとあり、この莫大な穀物を収納できる庁屋、倉、雑舎は相当な数にのぼったと考えられよう。また穀倉院の管理・運営には長官ともいえる別当以下、預、藏人等が置かれ、直接的な庶務にあたる官人の数も多数であったと推測される。下級官人の一部は院内の西南辺の地(七町地内)20丈、12丈の地に居住を許可されていたことが記録にみえる。

穀倉院は平安時代を通じて、各種の災害に見舞われたが、宮廷や京内経済に深く関与する重要な役目を担ったため復興は急であったと考えられ、その施設の補修・管理はよく保持されたものと考えられる。存続した下限については、明確に記録した文献史料はない。しかし安貞元年(1227)に学問料を藤原資之等2名に給したとあり、鎌倉時代初期にもなお細々と機能を維持していたことが窺えよう。調査2や調査4では室町時代に属する遺物、遺構の検出があり、機能と規模を縮小変質させながら、なおなんらかの活動を継続していた痕跡を残している。

ちなみに、穀倉院の規模は、一・二・七・八町の4町を占めたとする古図^{註1}と一・七・八町の3町、あるいは七・八町の2町とする古図がある。この周辺の押小路及び西坊城小路が未検出であること、各調査から得られた遺構の展開と遺物の官司的性格、穀倉院の果たした国家財政にとっての抜くべからざる職域から考慮して、4町規模はむしろ当然とすべきであろう。また穀倉院の機能や職員についての総合的な考察は既に山本信吉氏によって提出されている。

註1 調査1 平田 泰「山陰線高架に伴う試掘調査」平成元年度

調査2 堀内明博「二条駅土地区画整理事業に伴う発掘調査」平成元年度

- 調査3 平田 泰「山陰線高架に伴う発掘調査」平成元年度
 調査4 本弥八郎「二条駅地区土地区画整理事業に伴う試掘調査」平成4年度
 調査5 本弥八郎・平田 泰「二条駅地区土地区画整理事業に伴う立会調査」平成4年度(本調査)
 調査6 伊藤 潔「二条駅地区土地区画整理事業に伴う発掘調査」平成5年
 調査7 平田 泰・本弥八郎「地下鉄二条駅建設工事に伴う試掘調査」平成5年度
 調査8 平田 泰「二条駅地区土地区画整理事業に伴う発掘調査」平成5年度
 調査9 平田 泰「二条駅地区土地区画整理事業に伴う試掘調査」平成5年度(12月現在調査中)

- 註2 立会調査1 電子正彦「住宅新築工事に伴う立会調査」(82H R 11) 昭和57年度
 立会調査2 大槻明義「建物増築工事に伴う立会調査」(83H R 81) 昭和58年度
 立会調査3 家崎孝治「英進学院新築工事に伴う立会調査」(83H R 102) 昭和58年度
 註3 『西宮記』巻八「戒抄」に大同年中に置かれたとあり、『日本後紀』大同三年(808)九月十六日条では寺院に取める食封を止め、穀倉院に納めよと下令している。
 註4 註3と同『西宮記』巻八「戒抄」
 註5 『続日本後紀』承和元年(834)七月九日条
 註6 『日本紀略』天慶六年(943)三月十二日条に倉2字、庁屋1字炎上とある。
 『百鍊抄』寛仁三年(1019)三月一日条に穀倉院炎上とある。
 『日本紀略』寛仁三年(1019)三月十七日条に倉2字焼亡とある。
 『左経紀』長元七年(1034)八月十一日条に庁屋、雑舎、大風により転倒とある。
 『百鍊抄』元永元年(1118)十一月二十九日条に穀倉院に火ありとある。
 『玉葉』他 治承元年(1177)四月二十八日条に穀倉院炎上とある。(太郎焼け)
 註7 『葉實記』宝治三年(1249)四月二十七日条
 註8 裏松光世『大内裏園考証』第二十九「穀倉院」所載都城一古図
 註9 『拾芥抄』卷十九天文古抄本、寛永刊本所載図
 註10 山本信吉「穀倉院の機能と職員」『日本歴史』300号 1973年

3 右京五条二坊十四町 (93HR109)

調査経過

右京区西院矢掛町27-1・28-1番地においてマンション建築の基礎掘削工事に伴い1993年7月1日に、旧基礎撤去のための重機を使用して試掘調査の形で立会調査を実施した。敷地の西半分は南北方向の平安京道祖大路が推定されていた。

遺構 (図7・8)

明確な条坊関係の遺構は検出されなかったが、湿地状の落込み (図8-9層) を検出した。検出位置は、敷地境界より東へ10.5mで地表下1.2mである。この落込みは東へ2m以上、深さ0.3m以上落ち込んでいた。埋土より木製品を1点を採集したが、土器類は出土しなかったため落込みの時期は明確ではない。この落込みの上層のシルト層から木片と共に平安時代前期の土師器片を採集している。

遺物 (図9・10)

いわゆるナスビ形農耕具といわれている膝柄股鉞である。平面形をナスビを縦切りにしたような形につくり、身の中央に股をいれた耕具である。着柄軸を楕形につくり、身部を二股につくる。着柄軸の先端は欠損しているが、下降するにしたがい左右に幅をひろげ、その伸びきったところが笠形に突出する。身部は着柄軸の突出部から同幅でのび、先端部で細くなる。先縁の中央から上部分に向かう股を抉り、外縁を刃状に薄くしている。

このような形の膝柄股鉞は、黒崎直氏の研究によれば弥生時代後期にはじまり、古墳時代中期まで使用されるという。本遺跡の出土遺物は単独出

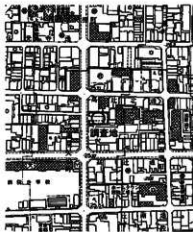


図6 調査位置図 (1/5,000)

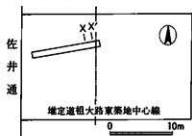


図7 遺構位置図 (1/600)

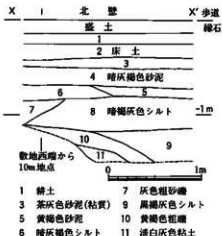


図8 遺構断面図 (1/40)

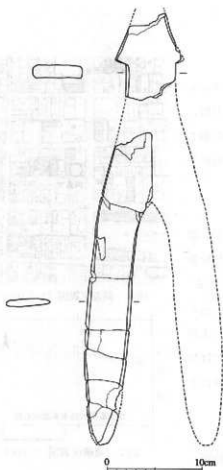


図9 木器実測図 (1/4)



図10 ナスビ形 木器

土品であり時期は不明であるが、その形式から古墳時代前期頃のものといえよう。(伊藤)

まとめ

工事の本掘削時に再度立会調査を実施することとしたが、業者からの連絡が遅れて再度の調査が実施できなかった。平安京城でのナスビ形木器の出土例は初めてであり、今後、周辺地域の発掘調査によって、同時代の住居跡などの発見が期待される。

註1 黒崎 直「古墳時代の農耕具—ナスビ形着柄鐮を中心として」『研究論集』Ⅲ 奈良国立文化財研究所学報第28冊 奈良国立文化財研究所 1976年

4 左京四条四坊九町 (93H L253)

調査経過

調査地は、中京区三条通柳馬場東入中之町19番地に所在する。調査は店舗兼住宅建設に伴い、1993年10月18・19日の2日間、計2箇所で行った。当地は三条通に南面しており、周辺の三条通沿いの調査で桃山時代から江戸時代にかけての茶陶に関する陶磁器類が数多く出土している。

今回の調査でも、落込みより同様な陶磁器が出土した。

遺構 (図版18、図12)

調査は、重機により地表下1.65m (独立基礎部分は2.92m) まで掘削された状況で実施した。

地表下1.2mにて、幅1.35m以上、深さ97cm以上の落込みを確認した。埋土は上下2層に分層でき、両層とも炭を混入するが下層の方が多量に入っていた。この落込みは、さらに西と北へ広がる。三条大路については、江戸時代の焼瓦を投棄した大きな土壌によって削平され確認できなかった。

遺物 (図版18、図13)

埋土の上層より桃山時代の志野・唐津・瀬戸の陶器、土師器皿、瓦器、下層より桃山時代の黄瀬戸・信楽・唐津・織部の陶器、土師器皿を採集した。多くは小さな破片であるが、黄瀬戸の向付は1/2を残す。

黄瀬戸向付(1) 口径(13.2cm)、器高4.9cm。いわゆる銅鑊鉢形の向付で、腰部から直に立ち上がり胴中央に紐状凸帯が付く。口縁端部は外へ折り曲げられている。底部は輪高台が付けれ、高台内には輪トチン痕と見込みにピン痕が残る。見込みには、草花が線彫りされ、花に胆礬を施す。全面に施釉されているが、釉調は悪く、白濁した黄緑色を呈している。

黄瀬戸鉢(2) 口径(15.4cm)、器高5.2cm。底部から胴部中位まで開き、口縁部までやや内傾ぎみに立ち上がる。ロクロ成形後、底部から口縁部にかけてへら削り調整され薄く仕上げられている。底部は高台がなく平底である。胴部内面には線彫りで草文が描かれ、

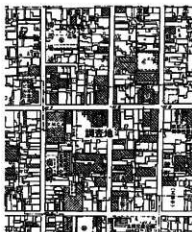


図11 調査位置図 (1/5,000)

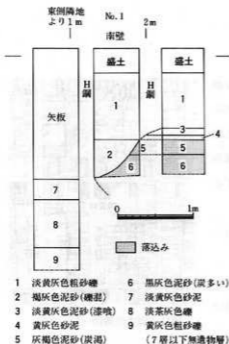


図12 遺構断面図 (1/50)



図13 土師器皿(4)

類が一括出土しており、この地域の特殊性を示している。今回の調査地も、その範囲に入る。調査では遺構の一部を確認するとどまり、遺構の性格まで解明するに至らなかったが、前述の調査と同様の成果が得られる可能性があった。今後、立会調査では様々の制約はあるが、遺物の採集だけにとどまらず、遺構を正確に把握できる調査方法の検討も必要である。

胆器を施している。文様は三方に配されていると思われるが欠損している。底部には輪トチン痕、見込みにはピン痕が見られる。

志野向付(3) 胴部と底部の一部で、胴部からまっすぐに口縁部まで立ち上がる筒向付である。胴部に草文が描かれ、淡灰緑色の釉を施している。

土師器皿(4) 口径(12.6cm)、器高(2.1~2.3cm)。底部から外上方にひらき、口縁部内側に端面をもつ。底部は平底で、内面の底部と体部の境に凹状の圏線をもつ。内外面ともナデ調整で、底部外面から体部下半まではオサエである。

その他、同じ遺構から破片であるが信楽水指、美濃鉄釉水指、天目茶碗、備前水指、唐津なども出土している。16世紀から17世紀前半代の遺物と考えられる。(小松)

まとめ

過去2回の調査、三条通に面する東の御幸町通から西の柳馬場通までの間では、多量の茶陶

註1 堀内明博「平安京左京三条四坊十三町」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1991年

久世康博「平安京左京四坊」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成元年度 京都市文化観光局 1990年

5 左京五条二坊八町 (93HL39)

調査経過

1993年5月6～17日、下京区綾小路通堀川西入妙満寺町581-1～3番地において、マンション建設工事に伴う立会調査を行った。当地は左京五条二坊八町にあたる。この八町では現在まで立会調査が6件行われ、平安時代中・後期、室町時代の土壌を検出している。発掘調査例のない地区でもあり、新たな遺構・遺物の検出に期待がかかった。

調査の結果、平安時代の井戸1基を検出した。

遺 構 (図版19、図15・16)

調査区の基本層序は、地表下1mまでが盛土層、1m以下が黄褐色泥砂層、1.2～2mまでが黄褐色砂泥層、2.2m以下がオリーブ褐色砂礫層の無遺物層である。

井戸は盛土直下で検出した。一边が南北で1.1m、東西で1mのほぼ方形の木組みで、深さ1.94mが残存していた。掘り鉢状の底部の中央には径45cmの曲げ物が5cm掘り下げ掘えられていた。井戸の木組みは腐食し、縦板は繊維状の痕跡が残るのみ、横板は泥土にその痕跡を確認したのみである。井戸内の埋土は、地表下2mまでは工事掘削の関係で単一層(暗灰色砂泥層)として処理した。2.2mから底部までは7層に分層した。2.2～2.3mは炭層である。2.3～2.65mは砂泥層(3層に分層)である。2.65～2.7mは横板を検出した高さで、炭を含む泥土層である。以下底部までは粘質の泥土層(2層に分層)である。

遺 物 (図版20・21、図17～19)

(1～19・26)は回転台土師器と白色土器で、(26)を除く(20～30)は瓦器と手づくね土師器である。

回転台土師器碗(1～9) 口径16cm前後、器高5.5cm前後。器形は底部より直に広がりつつ開く朝顔形を呈して



図14 調査位置図 (1/5,000)

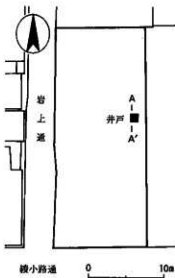
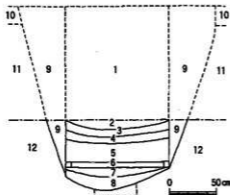


図15 遺構位置図 (1/500)

A 東 壁 A'

盛 土



- | | |
|-------------|-------------|
| 1 暗灰色砂泥 | 7 黄灰色泥土 |
| 2 黒色砂泥(炭澱) | 8 褐灰色泥土 |
| 3 褐灰色砂泥 | 9 暗黄色砂泥 |
| 4 茶褐色砂泥 | 10 黄褐色砂泥 |
| 5 暗黄色砂泥 | 11 黄褐色砂泥 |
| 6 茶灰色泥土(炭含) | 12 オリーブ褐色砂礫 |

図16 遺構(井戸)断面図(1/40)

回転台土師器皿(14~19) 口径は10cm前後である。土器を上から見た時、いわゆる「京系土師器」と異なる点はないが、底部がいずれも静止糸切りで、やや器壁が厚い。(17)は、体部下端にも糸切り状の条痕が認められる。

瓦器皿(20) 完形品で内面に放射線状連結暗文が見られる。くすんだ黒色を呈す。

瓦器碗(21~22) (21)は口縁内面に一条の沈線が入り、器壁はやや厚く、内面は平行のヘラミガキで、外面にもヘラミガキを全面に施す。

土師器皿(23~25) 「て」字状口縁の皿である。器壁の厚さはそれぞれ異なる。口縁に反りがあるもの、不分明なもの二種があって、一定していない。

墨書土器(26) 糸切り底の土師器皿で底面に呪文状の文字が見えるが判読できない。

土師器皿(27~30) 中型の皿で、口縁を二段ナデするものである。(吉村)

軒平瓦(31) 平城宮式6691A形式の均整唐草文である。瓦当右側部分の破片で、范傷はみられない。平瓦部凹面は布目痕をケズリ及びナデ調整によって消す。凸面の頸部から12

いる。回転台上で引き上げ、内面も同時に調整する。底部の切り離しは静止糸切りで、未調整。糸切りの紐は太目である。胎土は粗く、色調は赤褐色である。(6)は体部がやや内湾し、無高台。その他は上記と一致している。

回転台白色土器碗(10~12) 口径約16cm、器高4cm、底部は静止糸切り。高台を円盤状に作らず、体部下端より直接糸切りを行う。底部の厚さもそれぞれ異なる。この土器の特徴は、白く緻密な粘土で作られ、回転台引き上げ痕を強く残す点にある。(12)は体部は斜め外方に直線的に立ち上がり、回転台引き上げ痕は少ない。底部は糸切りした後、生乾き段階の内に粗く削り出した輪高台である。

回転台土師器碗底部(13) やや高めの高台で、色調は赤褐色を呈している。

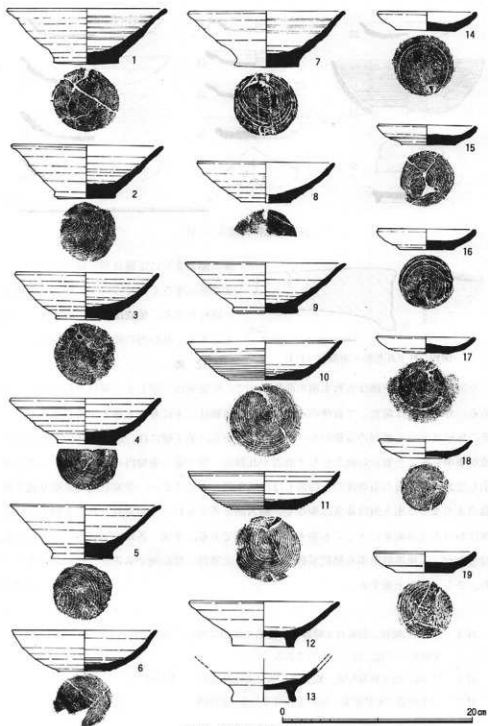


图17 遗物夹测图 (1/4)

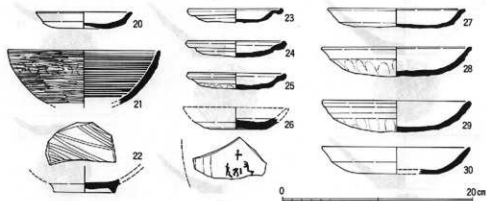


図18 遺物実測図 (1/4)

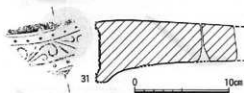


図19 軒平瓦拓影・実測図 (1/4)

cmの部分までには縄目焼き痕はみられず、また頸は小さく作っている。胎土には細かい砂粒を含み、焼成は良好、灰オリーブ色を呈する。井戸内の最下層より出土。

まとめ

今回検出した井戸跡は方形木組の曲物入りで、平安京内で最もよく発見されるタイプである。井戸部材は腐食して痕跡のみであった。遺物は、主に井戸上層と下層で採集でき、その堆積状況から数回の投棄があったことが分かる。第7層には、米切り底の土師器碗・皿が集中して、上層から出土した土師器や瓦器碗、最下層の曲物内の遺物も11世紀後半を示しており、下層の米切り底の土師器もほぼ同年代と考えてよい。平安京内で米切り底土師器のまとまった出土例は非常に少なく、搬入品と考えられ、今回発見された土師器は生産地における土器編年にとっても参考となる資料である。今回、各地の同種の碗・皿類を比較したが、兵庫県龍野市布勢駅家跡で出土した土師器に類似例があるが、時期が異なるため、さらに検討を要する。

(吉村)

註1 「京系土師器」回転台土師器や吉備系土師器に対し、京都で作られた手づくね土師器皿を総称して仮に付けたものである。

註2 『平城宮出土軒平瓦型式一覧』奈良国立文化財研究所 1978年

註3 岸本道昭『布勢駅家』龍野市教育委員会 1992年

6 左京五条三坊五町 (93HL96)

調査経過

下京区松原通新町東入中野之町175番地においてマンションが建築されることになり、その基礎掘削工事に伴う立会調査を1993年6月15日から24日まで5回実施した。

遺構 (図版22、図21・22)

工事区北東部のNo.2地点では流れ堆積の粗砂礫層で、北西部のNo.1地点、西部中央のNo.3地点では地表下2.1mにて土器小片を採集した。中央部のNo.5地点では地表下2.6mの第3層より、土器は土圧で割れていたが磨滅せずほぼ完形のまま1箇所に集中して出土した。

これらのことから、工事区の東半は北から南への流路となっており、No.2地点は流路の中央部分、No.5地点は流れのゆるやかな岸近くの川底で、No.1・No.3地点は川岸であったと考えられる。

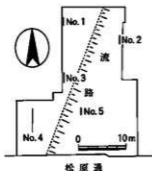


図21 遺構位置図 (1/800)

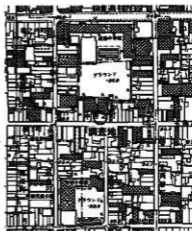


図20 調査位置図 (1/5,000)

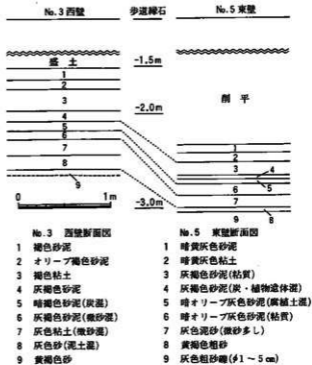


図22 遺構断面図 (1/40)

遺物 (図版23、図23)

Na5地点の第3層より弥生時代後期後半の土器が出土した。器種には壺・甕・高杯・器台がある。

壺(1～6) 大小から3形態に分類できる。

大型品には(2・6)がある。(6)は、口縁部は外湾気味に立ち上がり、端部はわずかにつまみ上げる。頸部付近から口縁部内面はナデ調整によって仕上げられ、胴部外面は斜め方向のハケメ調整を施す。内面下半にもハケメ調整を施す。外面全体に煤が付着し、内面にはこげつきが観察される。(2)は、大きく張る胴部から直線的に外傾して立ち上がる口縁部を持つ。口縁端部はやや内傾する平坦面を持つ。口縁部内外面ともに細かいハケメ調整を施す。

中型品には(5)がある。中位よりやや上に最大径をもち、球形にふくらむ胴部から口縁部が「く」の字状に外反して短く立ち上がる。底部は突出気味におさめる。頸部付近から口縁部内面はナデ調整によって仕上げられ、口縁端部はやや内傾する平坦面を持つ。胴部外面は斜め方向のハケメ調整を施し、下部は縦方向のハケメ調整を施す。他の甕に比べ器壁が厚い。

小型品には(1・3・4)がある。(3)は、球形に近い張りを呈する胴部から口縁部が「く」字状に外反して立ち上がる。口縁端部はわずかにつまみ上げ外傾する小さな平坦面を持つ。底部は突出気味におさめる。胴部外面は左下がりの粗いタタキ目で調整を施す。口縁部内外面から頸部外面はヨコナデし、胴部内面は縦方向のハケメ調整を施す。外面全体に煤が付着し、内面にはこげつきが観察される。口径と器高はほぼ等しい。(4)は、なで肩の胴部から緩やかに外反する口縁部を持つ。頸部付近から口縁部内面にはナデ調整によって仕上げられ、胴部外面は細かい斜め方向のハケメ調整を施す。なお、頸部内面にはナデ調整の前段階に施された横方向のハケメ調整の痕跡が残る。外面全体に煤が付着する。(3)と同様に口径と胴部最大径はほぼ等しい。(1)は、丸みのある胴部から緩やかに外反する口縁部をもつ。外面は左下がりの粗いタタキ目で調整を施す。胴部最大径は口径より大きい。

壺(7) 胴部は玉葱状に横に張る。底部は小さく不安定である。胴部下面はヘラケズリで調整し、胴部下半は不規則な方向で丁寧なヘラミガキを施す。口頸部および胴部上半を欠くが、細く長い円筒形の口頸部が付く細頸壺である。

底部(8・9) 底部から胴部への立ち上がりが急なものであり、甕の底部に相当する。

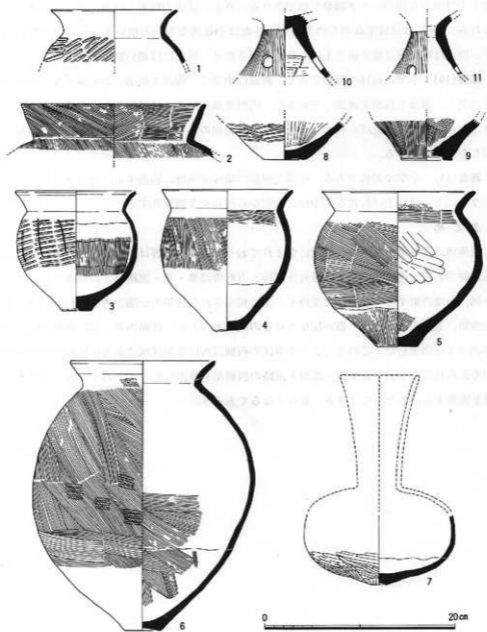


图23 遗物实测图 (1/4)

(9) は底部外面中央が凹むものである。外面は縦方向のハケメ調整が施されている。内面にも不規則な方向のハケメ調整が観察される。外面には煤の付着、内面にはこげつきが見られる。(8) はほぼ平底のものである。外面は不規則な方向の粗いタタキ目で調整を施す。内面は縦方向に粗く掻き上げた痕が観察される。胎土には細い雲母を多く含む。

高杯(10) 小型の高杯の脚部である。脚部は中空で、脚部と裾部とが明確でなくラップ状に開く。脚部と杯部を連続して形成し、円盤充填法によって杯部を接合する。外面はヘラミガキによって仕上げられる。内面下部は横方向のヘラケズリを施す。中位に外面から円孔を3個穿孔する。

器台(11) 小型の器台である。受部と裾部の境界が明瞭に屈曲する。外面は丁寧なヘラミガキによって仕上げられる。中位に外面から円孔を3個穿孔する。 (小樽山)

まとめ

当地域は烏丸線小路遺跡の範囲に含まれており、遺跡の内容は弥生時代から古墳時代の集落跡である。過去の調査では竪穴住居跡・方形周溝墓・溝・流路などが検出されている。今回、敷地の東半分で検出した流路も、先に検出された流路の一端と考えられる。調査区の西側、北端では小片の土器が採集されるのみであったが、流路内の土器は磨滅もなく完形品が4点出土した。このことから工事区の西側以西に生活区域である住居跡などの存在が考えられる。今回の成果は土器類と流路の西屑部を検出したことであり、周辺地での調査を実施するにあたっては貴重な資料となるであろう。

7 左京六条三坊七町 (93H L305)

調査経過

下京区室町通五条上る坂東屋町285番地、東筋屋町189番地において、店舗兼住宅が建築されることになり、その基礎掘削工事に伴う立会調査を1993年11月19日から11月30日まで3回実施した。

遺構 (図版24、図25・26)

No.2～4地点の地表下93cm～1.8mで、9面の路面を確認した。また、地表下1.8～1.9mの第21層、1.9～2.2mの第22層からは飛鳥時代から奈良時代の土器を採集した。この2層は流れ堆積であるが、土器はそれほど磨滅していない。この流路は、図25にあるように五条通の発掘調査で検出された流路に続くと考えられる。

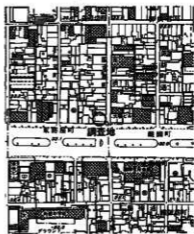


図24 調査位置図 (1/5,000)

No.5地点では、地表下1.9mで六条坊門小路の路面と北側溝を検出した。溝の上部は削平されており、幅90cm、深さ10cm、東西長1.6mが残存していた。溝埋土より平安時代後期の遺物を採集した。この路面と側溝は図25にあるように西隣の発掘調査で検出された側溝に続くものである。

遺物 (図版25、図27)

調査で出土した遺物には、流路から出土した飛鳥時代から奈良時代に属する土師器蓋(15)・壺(16)・甕(20)、須恵器蓋(17)・杯身(18)・杯(19)・甕(21)がある。また六条坊門小路北側溝からは(1～8)及び、それに対応する路面からは(9～14)の遺物が出土した。平安時代後期の土師器皿(1～5・9～13)、瓦器碗(6・7)、白磁碗(8)、白色土器碗(14)がある。

土師器皿には、小型で口縁部が強く屈曲し、



図25 遺構位置図 (1/1,000)

まとめ

当調査地点も、当調査地から約300m北の本文中の調査地(93HL96)も弥生時代から古墳時代の烏丸綾小路遺跡に含まれる。93HL96では、弥生土器が良好な状態で出土しており、遺物が出土した湿地近くに居住跡などの存在が考えられた。今回出土した古墳時代から飛鳥時代の土器類も磨滅しておらず、遠くから運ばれたものとは考えられない。上記の調査地と同じく近くに古墳時代から飛鳥時代の生活の場が存在していたことが推定される。そして平安時代以降は路面と側溝にみられるように遺構が重複して現代まで続いていたことが明らかになった。

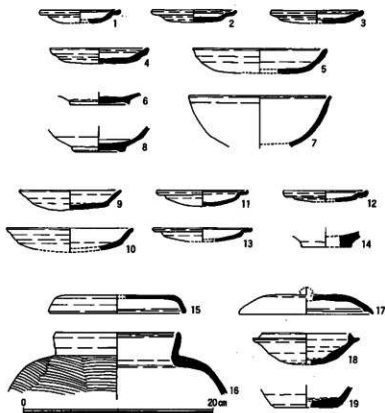


図27 遺物実測図 (1/4)

8 左京八条二坊一町 (92H L352)

調査経過

調査地は、下京区猪熊通木津屋橋上る樽屋町387番地に所在する。調査は店舗建設工事に伴い、1993年2月4・8日に2回実施した。当地は、敷地東半分が猪熊小路に該当するため、同路面および側溝の検出に主眼をおいて調査した。

調査では、猪熊小路の路面4面、うち平安時代後期1面、時期不明3面と平安時代前期・後期の土壌・落込みを確認した。

遺構 (図版26、図29・30)

No.1地点では、地表下99cmにて、幅60cm、深さ53cmの平安時代後期の土壌1基を確認した。地表下1.2m以下は砂泥の無遺物層である。

No.2地点では、北壁、東壁の2面を調査した。北壁では、地表下65~108cmにて、4面の路面を確認した。路面の検出長は東西65~105cmで、いずれの路面も西へ緩やかに下っていた。路面の上層3面は遺物の出土が

なく時期不明であるが、最下層の路面の埋土からは平安時代後期の緑釉陶器碗、白色土器碗、須恵器甕、炭を採集した。路面の西側に存在すべき側溝は、断面中央部の掘削が浅かったため不明である。

東壁では、中央部分の地表下1mにて、幅97cm、深さ36cmの土壌(SK1)を確認した。埋土は上下2層に分かれ、上・下層から平安時代前期の遺物を採集した。

北側部分では、地表下1.2mにて、幅52cm、深さ19cmの土壌(SK3)を確認し、埋土より平安時代前期の遺物を採集した。

遺物 (図版27、図31)

SK1からは土師器皿・碗・甕・羽釜、須恵器杯・壺・甕、黒色土器碗・甕、緑釉陶器皿・碗が出土した。SK3からは、土師器皿・甕、灰釉陶器碗・皿、須恵器甕、黒色土器甕、瓦が出土した。

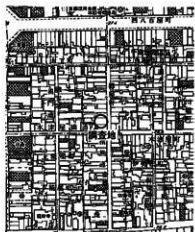


図28 調査位置図 (1/5,000)



図29 調査断面位置図 (1/800)

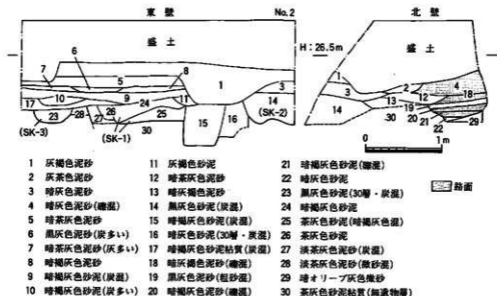


図30 遺構断面図 (1/50)

平安時代後期の土器は、東壁断面南端の地表94cm以下で検出した3基の土壇(15-16層)・落込み(SK2)、東壁断面北半の地表下1m以下の落込み(17層)から出土した。

出土遺物の(1~14)は、SK1の上層(24層)と下層(25層)から出土した。両層とも二時期の遺物が混入しており、9世紀中頃から後半の一群(1~4、6~11・13・14)と10世紀末(5・12)の二群に分かれる。

土師器 (1)は浅い皿。(2~4)は体部に指オサエが残る杯形である。

須恵器 (5)は碗である。(6)は小壺。

黒色土器 (7・8)は黒色土器Aの碗で、内面には細かく密なヘラミガキを施す。

緑軸陶器 (9~11)は京都洛北系の軟質緑軸陶器碗・皿で内面にミガキが見られる。釉調は明緑色である。(12)の緑軸陶器碗は、胎土が灰白色の軟質で、近江系である。(13)は胎土が須恵器質の緑軸陶器碗である。

土師器 甕(14)は口縁内面には明瞭なハケメ、口縁外面は横ナデ、体部は全面に縦方向の平行タタキ。盤(15)は、口縁は大きく外反し端部は内側に巻き込む。体部外面には粘土紐の痕が明瞭に残り、体部内面には右下りのハケメを施す。

青白磁 蓋(16)はSK2から出土。上面に型押しされた草花文が陽出されている。

(吉村)

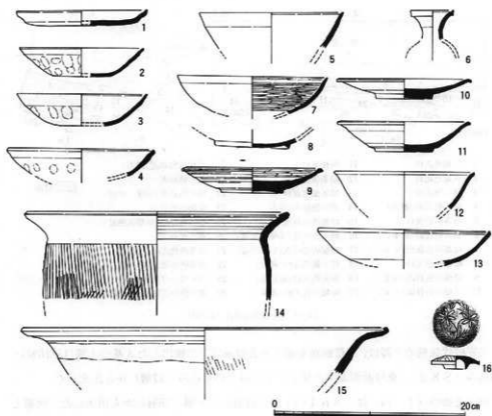


図31 遺物実測図 (1/4)

まとめ

基礎掘削が浅いため路面と溝との切り合い関係を確認できなかった。また溝と平行な東壁でも様々な遺構が重複し、猪隈小路西侧溝は明らかにできなかった。しかし、路面の残存状況から考えて、当地域には平安時代の遺構が確実に遺存しているといえる。

9 左京九条四坊五町隣接地 (93HL228)

調査経過

調査地は、南区東九条東御霊町36・37・40番地に所在する。調査はマンション建設工事に伴い、1993年9月24日～28日の期間に延べ3日間、計4箇所を実施した。

当地は、現九条通りの南側に位置しており、平安京九条大路に南接する。また、縄文時代から古墳時代の遺物散布地である烏丸町遺跡の南端に位置する。過去の当地周辺の水道・ガス管埋設、共同溝等の工事に伴う立会調査では、弥生時代から古墳時代の遺構・遺物、中世の土壌・遺物包含層を確認している。

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡と思われる遺構・落込み等を確認した。

遺構 (図版28、図33・34)

Na1地点では、弥生時代から古墳時代と室町時代と思われる遺構を確認した。検出面は地表下25cmの同一面である。地表下40cm以下は砂泥・砂礫の無遺物層であった。

Na2地点では、地表下43cmにて古墳時代の落込みを確認した。

Na3地点では、地表下41cmにて一部に焼土が多量に入った古墳時代の落込み、土壌を各1基確認した。南壁断面で確認した落込みは、深さ15～30cm、長さ2.7m以上であった。同落込みの西端肩口の少し落込んだ部分に多量の焼土が入り、この中から古墳時代の土師器甕を採集した。南・西両壁にかけて検出した土壌は、深さ16～30cm、長さ南北2.2m、東西1.8m以上である。土壌の北側肩口付近には、焼土が底に貼りつき横に1mぐらい広がる。この焼土が集中している部分から、古墳時代の土師器甕・壺、須恵器杯身を採集した。この遺構は、焼土の状況から考え竪穴住居跡である可能性が高い。また、下層の土壌・落込み(図34-7・8層)からも土師器甕・壺を採集した。

Na4地点では、地表下45cmにて深さ20cm、長さ1.6mの土壌を確認した。この土壌も中央部に焼土が集中しており、Na3地点と同様、竪穴住居跡であることが考えられる。埋土の焼土部分からは土師器甕を採集した。



図32 調査位置図 (1/5,000)

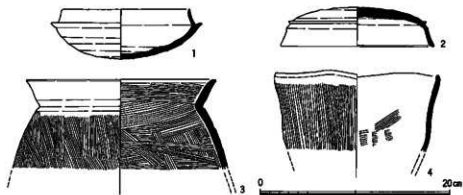


図35 遺物実測図 (1/4)

遺物 (図版28、図35)

遺物は、No 3 地点とその近くの包含層から採集したもので、No 3 地点の焼土層からは (1・3) を、他の包含層から (2・4) を採集した。

須恵器 (1) は杯身である。口径は13.6cm、高さ5.3cmある。体部下半はヘラケズリを施す。胎土には砂粒を多く含み、濃い灰色を呈する。TK10形式に最も近いものとする。杯蓋(2)は上面をヘラケズリした他は、回転ナデのみで仕上げている。色調は灰白色を呈する。TK10形式よりもやや古いMT14形式に近いものである。

土師器 甕 (3) は (1) と共に住居跡の焼土面より出土した。口縁部外面を横ナデし、体部内外面とも櫛状ハケによる調整をする。淡黄色を呈する。(4) は口縁部が波状になった破片で、黄赤色を呈する。大阪府池島・福万寺遺跡の6世紀前半の甕、岡山県百間川原尾島遺跡の468の甕などに類似する。(吉村)

まとめ (図33)

今回検出した遺構は、落込みの中の焼土部分の状況あるいは全体の形状からも竪穴住居跡と考える。周辺の調査でも、弥生時代の遺構として河原町通九条交差点西側の道路中央部 (B) で土壇、南東角歩道上 (D) で遺物包含層、交差点から真東へ入る路地を約40m 入った道路上 (C) で南北の溝を確認している。古墳時代のものとしては、調査地前面歩道上 (A) で住居跡を発見している。また京都市埋蔵文化財調査センターが実施した調査地東側宅地 (E) での試掘調査では鴨川の自然沈路堆積を確認している。現在、調査地北部に広がる烏丸町遺跡は遺物散布地として登録されているが、過去の調査成果等を考える

なら、この遺跡は、蛇行しながら南流する鴨川の西岸の微高地に広がる集落跡になると考えられる。明治期の地図を参照すると、今回の遺跡確認地点は東九条村の中央東端あたりに位置しており、東九条村が立地条件の整った微高地にあることを考えるなら、現在の遺跡の範囲はさらに西と南へ広がる可能性が高い。

註1 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981年

註2 同上

註3 勤和歌山県文化財センター編（第32回埋蔵文化財研究集会『古墳時代の道を考える』）
第一分冊 埋蔵文化財研究会 1992年

註4 同上

註5 百瀬正恒「平安京左京九条三・四坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
京都市埋蔵文化財研究所 1988年

註6 百瀬正恒「平安京左京九条四坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』
京都市埋蔵文化財研究所 1987年

註7 1984年度立会調査 未報告

註8 『京都市内遺跡試掘・立会調査概報』 昭和56年度 京都市文化観光局 1982年

註9 『京都市内遺跡試掘調査概報』 平成3年度 京都市文化観光局 1993年

III その他の遺跡

1 仁和寺院家跡 (93UZ5)

調査経過

1993年4月5～9日、右京区宇多野御屋敷町1-5番地他においてマンション建設工事に伴う立会調査を行った。当該地は及ヶ岡の西側に位置し仁和寺院家の推定地にあたり、1960年に今回の調査地の北約200mの地点で、仁和寺南院御堂跡が検出されている。また、1982年に調査地の北側隣接地のマンション建設工事に伴う調査で、平安時代中期から鎌倉時代の遺物を含む北側へ延びる池状遺構を検出している。この池状遺構も仁和寺南院に伴う池と考えられているので、当該地でも南院に関係する遺構の検出が期待された。



図36 調査位置図 (1/5,000)

調査の結果、平安時代後期の遺物を多量に含む池状遺構やそれを切って作られた溝・井戸・土壇・版築状遺構等を検出した。

遺 構 (図版29、図37・38)

調査地の基本層序は、地表下28cmまでが盛土層、43cmまでが灰黄褐色泥砂層(室町時代以降)、60cmまでが室町時代の土師器を多量に含む暗灰黄色砂泥層、82cmまでが平安時代後期の土師器等を含む褐色砂泥層となる。平安時代の包含層以下は湿地状の堆積層が2層あり、上層と下層の緑灰色泥土層(北側で1.5m以下、南側で2m以下)は無遺物層である。

湿地状の堆積層は調査地全域で検出している。堆積層は上・中・下の3層に分かれる。上層は厚さ約20cmのオリーブ黒色砂泥層(混礫)で、平安時代後期の遺物(土師器・須恵器・白磁・木製品)を多量に包含する。中層も平安時代の遺物を若干含むオリーブ黒色砂泥層で、この堆積層は調査区北東から南西にかけて東に落ち込み、深さ約50cmの段を形成する。段上の北西部では層の厚さが約35cm、段下の南東部では厚さ約80～90cmである。なお段の肩口部分には厚さ5cmの粗砂層と砂泥層が互層に堆積する。この上・中2層は池状

遺構の堆積と考えられる。下層は暗オリーブ黒色泥土層で調査地北東部から南西部へ流路状に堆積する。北部での最大幅7.9m、深さ50cm以上を測る。下層からの遺物は確認できなかった。

上記堆積層の下層上面から切り込む溝を検出した。溝の幅1.13m、深さ35cm以上で南北方向にやや蛇行して流れる。埋土は灰色砂礫層で、同埋土からは遺物は検出できなかった。また同溝の西側掘削断面でもう1条の溝を確認したが、面的には把握できなかった。

調査地東部では井戸(A)を検出した。一辺が1mの方形を呈するが木組等は不明で、工事掘削時に井戸部材を確認したのみである。埋土からは、平安時代後期の土師器・獣骨等が出土している。調査路北側の掘削壁面では井戸(B・C)を検出した。いずれも湿地状堆積層の上層を切って成立する。両井戸は東・西に4m(心々間)離れて並ぶ。井戸Bは一辺が1mの方形木組みで、深さ1.45mが残存し、底部に横桟を確認した。井戸内の埋

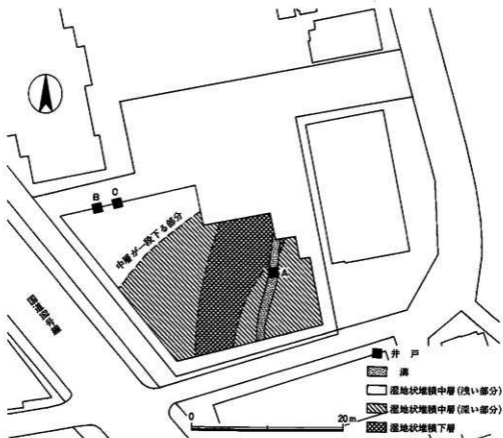


図37 遺構位置図 (1/500)

土からは平安時代後期の土師器が出土している。井戸Cは一辺が1mの方形木組みで、深さ1.05mが残存し、底部で横棧の抜け落ちた穴を確認した。この井戸からも平安時代後期の土師器・白磁が出土している。

調査区南側の地表下94cmでは版築状の遺構を検出した。版築の厚さ26cmで5層に分層でき、上から第1層では平安時代後期の平瓦（軒平瓦1点）が敷かれた状況を呈しており、第2・3層には礫、第4層には炭が含まれ、第5層には礫と多量の平安時代後期の土師器・須恵器片が含まれる。いずれの層も堅く締まっている。

他に北壁断面の湿地状堆積下層の西肩部で、土師器の微片を含む土壌（幅1.6m・深さ40cm）を検出している。時期は特定できなかった。

遺物（図版30、図39）

土師器は、湿地状堆積層の上層から多量に出土している。また中層からも上層に比べ少量であるが出土している。井戸A～Cからも少量出土している。

皿(1) 口径9.4cm、器高1.0cmを測る。底部は平らで底部外面外周に凹線が廻る。口縁端部は肥厚し大きく外反する。底部外面はオサエ、他はナデ調整。灰白色を呈す。中層から出土。

皿(2) 口径10.6cm、器高1.8cmを測る。丸みをもつ底部と強く屈曲する口縁部をもち端部はつまみあげ。底部外面はオサエ、他はナデ調整。浅黄橙色を呈す。中層から出土。

皿(3～6) 口径8.9～10.1cm、器高1.8～2.2cmを測る。底部内面は平らで内湾しつつ小さく立ち上がり、口縁部は二段ナデを施し端部は直立して丸くおさめる。底部外面はオサエ、他はナデ調整。上層から出土。

杯(7) 口径14.4cm、器高2.2cmを測る。短く立ち上がる体部をもち口縁部は二段ナデで端部は丸くおさめる。二段ナデ以下は成形時の指頭痕を残す。浅黄橙色を呈する。中層から出土。

杯(8・9) 口径1.5～16.2cm、器高3.0～3.2cmを測る。底部内面は平らで体部はやや内湾して立ち上がる。口縁部は二段ナデを施す。浅黄橙色を呈する。上層から出土。

須恵器は、湿地状堆積の上層、中層で出土しているだけである。出土量は土師器に比べ

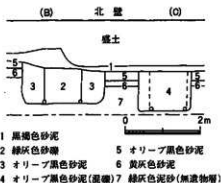


図38 遺構（井戸）断面図（1/100）

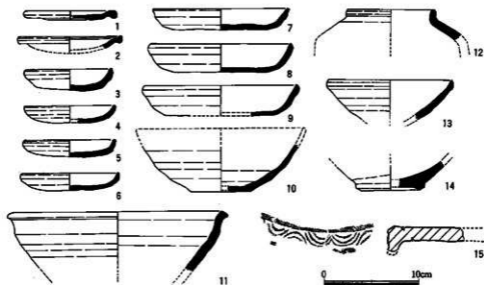


図39 遺物実測図 (1/4)

て非常に少ない。

碗(10) 口縁部を欠く。底部から内湾気味に立ち上がる体部をもつ。体部内・外面はロクロナデ、底部内面にロクロ成形の段を残し、底部外面に糸切痕を残す。灰色を呈する。中層から出土。

鉢(11) 口径22cmを測る。口縁部内面にロクロナデを施し、端部はやや外反する。黒灰色を呈し、外面に自然釉がみられる。中層から出土。

壺(12) 口径9.1cmを測る。口頸部は短く直立して端部は丸く終わる。ロクロナデは丁寧に施される。胎土は緻密、灰白質を呈する。上層から出土。

輸入陶磁器は、湿地状堆積上・中層、井戸(C)で数点出土している。

白磁碗(13) 底部を欠く。口径13.0cmを測る。玉縁を有する碗で、体部はやや薄手、胎土は灰褐色を呈し、黒色粒を含む。釉は黄白色に発色し貫入が多い。中層から出土。

白磁碗(14) 底部の破片。胎土は灰白色を呈し、釉は淡灰緑色を帯びる透明釉、気泡は見られない。外面底部は施釉していない。中層から出土。(川村)

瓦類は、版築状遺構の第1層から平安時代後期の平瓦片を多数と軒平瓦1点が出土している。

軒平瓦(15) 瓦当左側部分の破片で、瓦当面の文様は中心部から左右に三重及び二重の

弧線が三反転する均整の波状文様である。瓦頭の幅が推定で15.2cmを測る小振りの瓦で折り曲げ技法で成形されている。平瓦凹面に「×」と直線の部分しか確認できないへう描きがある。胎土は細かい砂粒を含み、焼成は甘く、磨減が激しい。灰白色を呈する。1993年度の発掘調査（左京九条四坊七町）で同文の軒平瓦が出土している。

木製品(16・17) 井戸の部材多数と柱根が2例出土した。柱根の2例はいずれも工事掘削中に出土したもので、(16)が湿地状堆積層の中から出土したこと以外(17)については出土地点及び層位は不明である。柱根(16)は、径14cm、長さ60cmを測る。底部は平坦で、底部から30cmの高さまでは幅3～5cmの面取りを11面に施している。柱根(17)は、径16cm・残高は50cmを測る。底部には凸型の突出部が2箇所ある。一方が一辺6cm、もう一方が一辺5cmの正方形で、高さが共に1.5cmである。

まとめ

今回の調査により、当調査地全域に湿地が広がっていることが確認できた。湿地の上・中層からの出土遺物は平安時代後期に比定されることから、上・中層については仁和寺院家に関する池の一部であることが考えられる。なお中層以下の堆積層からは遺物を確認しておらず、池状遺構は自然の湿地あるいは流路を利用して作られたと思われる。今回の調査地北隣でも平安時代中期から鎌倉時代の遺物を含む池状遺構を検出している。しかしこの池状遺構については北側へ落ちる肩口が確認されており、今回の池状遺構とは直接関係するか否かは断定できない。湿地状遺構の下層から切り込む溝に関しては、遺物を確認することができず時期を特定できなかった。同じレベルで検出した井戸(A)と関連する可能性も考えられる。調査区北側の2基の井戸は湿地状遺構を切って作られているが、井戸と湿地からの出土遺物の時期差はあまり認められない。調査区南側の版築状遺構は、院家の中の各院を分かつ築地等の遺構になる可能性が考えられる。

註1 杉山信三『院の御所とその御堂』奈良国立文化財研究所 1962年

註2 『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和57年度 京都市文化観光局 1983年

2 六勝寺跡 (93KS173)

調査経過

調査地は、左京区岡崎通の二条通から菟水までの歩道上と市営岡崎公園駐車場入口の2地点である。調査は水道管布設工事に伴い、1993年8月19日から8月30日の期間に計5箇所で行った。

当地は、平安時代後期から鎌倉時代の六勝寺跡にあたる。また六勝寺跡の下層には、弥生時代から古墳時代の集落跡である岡崎遺跡が広く分布している。

今回の調査では、平安時代後期から鎌倉時代の瓦を多量に含む遺物包含層と、その下層に弥生時代末期から庄内期にかけての遺物包含層を確認した。

遺 構 (図版31、図41)

調査地点は京都市美術館東側歩道上で、動物園正面入口よりやや南側に位置する。この地点の地表下50~71cmにて、平安時代後期から鎌倉時代の瓦が多量に入った厚さ30~40cmの遺物包含層(2層)を確認した。包含層は南北13mにわたって広がっており、南端と北端の調査地点の状況からみて、これよりは広がらないと考えられる。

遺 物 (図版31、図42・43)

包含層からは軒平瓦1点、軒丸瓦2点、多量の平瓦・丸瓦、土師器皿、鉄製品を採集した。また、これより下層の地表下1.2mの灰色粗砂層より弥生時代後期の土器を採集した。

蓮華文軒丸瓦(1) 主文は1+5個、複弁の回りを線で画し、弁間文は1本の線となっている。連珠はややつまっており、瓦質のいよし瓦である。

十字花文軒丸瓦(2) この時期の遺跡からわずかに散見できるもので、小振りで赤褐色を呈する。

巴文軒丸瓦(3) 外縁部がないものである。

刺頭文軒平瓦(4) 完全折曲げて文様部の凹

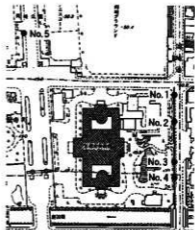


図40 調査位置図 (1/5,000)



図41 遺構断面図 (1/40)

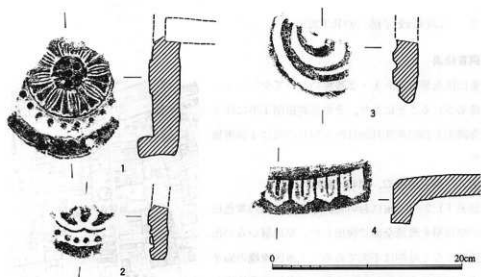


図42 軒瓦拓影・実測図 (1/4)

部にも布目痕が残っている。いずれの瓦も京都近郊で生産されたものばかりで、いわゆる地方産瓦がないのが特徴である。

他に、下層より弥生時代末期から庄内期にかけての上器が少量出土している。その中には、列点文(6)と凹形浮文と凹線文(5)が入るものがある。(吉村)

まとめ

瓦の出土地点は、円勝寺跡と法勝寺跡の間の道路推定地にある。今回検出した遺物包含層は30～40cmの平均した厚さで幅広く確認されている状況から、出土した瓦類は単なる投棄ではなく、道路の整地目的に利用されたことが考えられる。

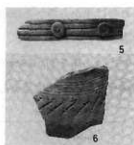


図43 No.3地点出土遺物

3 六波羅政庁跡 (93RT225)

調査経過

東山区大黒町305-1・2番地においてマンションが建築されることになり、その基礎掘削工事に伴う立会調査を1993年9月20日から24日の間に4回実施した。

遺構 (図版32、図45・46)

地表面下1.2~1.3mにおいて、厚さ約30cmの黄色粘土の整地層を敷地全面で検出した。整地層からの出土遺物はなく時期は不明である。工事区東端のNo.2地点では、地表面下2.24~2.36mにて落込みを検出した。これはNo.1・No.3地点と続き、約8m西のNo.4地点では地表面下2.0~2.52mにて落込みを検出した。

これらは東から西へと流れてい

た溝と考えられる。

幅1m、深さ30~40cmの2本

の溝を東西8m以上確認し、埋

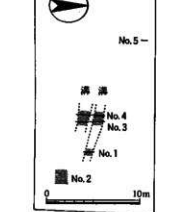


図45 遺構位置図 (1/400)



図44 調査位置図 (1/5,000)

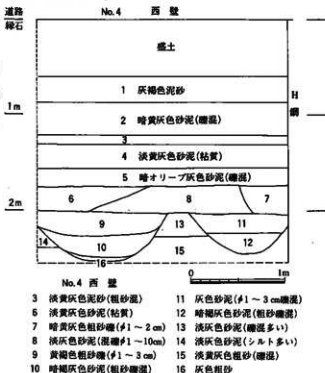


図46 遺構断面図 (1/40)

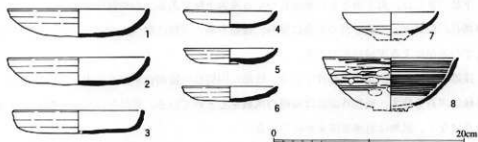


図47 遺物実測図 (1/4)

土から平安時代後期の遺物を採集した。また溝の底面の高低差は約15cmであった。

遺物(図版32、図47・48)

土師器 (1～3)は、大型の土師器皿で13.8～14.8cmの口径を有する。外面調整は、いわゆる二段ナデである。(4～6)は、土師器小皿で口径が、9.8～10cmのものが多い。いずれも二段ナデとなっているもので、12世紀に入るものと考えられる。(7)は、白磁小皿でⅢ類に分類されるもので、体部から口縁部にかけての器壁は薄い。釉調は濁った灰白色である。瓦器碗(8)は、口径14.2cmである。口縁部に沈線が残り、外面のミガキはまばらである。 (吉村)

木製品 溝内より出土した木製品には、下駄・漆器碗・箸・木球・鉄形・用途不明品などがある。

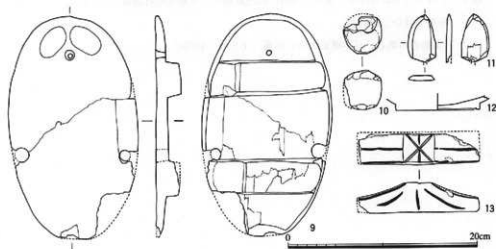


図48 木器実測図 (1/4)

下駄(9)は、台と歯とを一木からつくる連歯下駄である。やや幅広の小判形を呈する。鼻緒孔の位置は、前壺を台の中央に穿ち、後壺を歯の内側に穿つ。台の上面には使用に際しての足指による摩滅痕がのこる。

漆器碗(12)は、体・底部片である。底部に円盤状の擬高台をつくり出し、底部外面の外縁に凹線を施す。底部外面には轆轤の爪痕をとどめている。底部外面を除く部分に下地塗りはなく、素地に直接黒漆をかけている。

木球(10)は、上下端を粗く調整しただけの雑なつくりで、腐食が著しい。

鐵形(11)は、実用の鉄鐵を模したものである。三角形式柳葉形の身に基をつくりだし、現存長5.1cm、幅3.0cm、厚さ0.6cmを測る。

用途不明木製品(13)は、長方形の材一面中央を方形に高くのこし、斜めに削り込む。上面方形部には「米」が彫り込まれてる。上面及び側面には、墨書が認められる。(伊藤)

まとめ

当地は、鎌倉時代の六波羅政庁跡にあたる。「京都市の地名^{H2}」によると、平安時代後期は平氏の六波羅邸にあたり、調査地点の近くには、平清盛の泉殿、平頼盛の池殿、平教盛の門脇殿などがあつたと推定されている。しかし、近隣の発掘調査は少なく不明な点が多かつた。今回の立会調査でも明確な建物跡などは検出されなかつたが、平安時代後期の溝は六波羅邸に関係する遺構と考えられる。

註1 「博多出土貿易陶磁分類表」『福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告』IV別冊 福岡市教育委員会 1984年

註2 「京都市の地名」『日本歴史大系』27巻 平凡社 1979年

4 法住寺殿跡 (93R T176)

調査経過

東山区東瓦町964番地の智積院において防火水槽が設置されることになり、その掘削工事に伴う立会調査を1993年8月19日から9月2日の間に4回実施した。

遺構 (図版34・図50)

現地表下より2.2mにて井戸を検出し、8.5mまで確認したが、工事掘削深が約7mまでのため井戸底部は確認できなかった。井戸は、桶状の筒を9段以上積重ねたものである。筒は幅14cm、厚さ2cmの板を約16枚使用し、竹製のタガを上下2段にはめたもので、外径78cm、内径74cm、高さ90cmであった。



図49 調査位置図 (1/5,000)

調査地の地表下3m以下は無遺物層の淡青灰色砂泥層であるが、同層からは井戸の掘形は検出できなかった。このことから井戸の工法は、筒より少し太い穴を掘って筒を入れ、積み重ねては掘り下げて筒を沈めていくという現代の潜函工法と似たような方法で掘削したものと考えられる。なお、井戸の下端の8.5mの深さは、一段低くなる南側道路面からでも2.9mの深さになる。埋土からは近世の陶磁器などを採集した。

遺物 (図版34、図51)

染付皿(1) 直径20.5cm、高さ4.3cm、底径7.3cmの伊万里中皿。体部外面下半を削り、底部もやや深く削る。釉は、やや白濁した長石釉が厚くかかり、見込みに目あとが見られる。絵柄は鳥と水辺の草を配する構図で、呉須の濃淡で簡略に描かれており、素朴な味わいがある。破面に漆継ぎの漆が付着する。

壺(2) 口径14.7cm。口縁から外面にかけて黄褐色の鉄釉を施釉している。口縁内周に蓋受けが付く。焼しめ陶器である。常滑の製品と考えられる。

土師器皿(3) 口径9.7cm。器壁が厚く、内面は一度の回転によってナデ上げている。口縁端部はつまみだし、鋭角をなす。外面に指圧痕が明瞭に残る。(吉村)

まとめ

当地は、法住寺殿跡に推定されるが、対象となる遺構・遺物は検出されなかった。現在

の智積院は江戸時代に当地に移転してきたもので、今回検出の井戸は智積院のものと考えられる。江戸時代の井戸は通常石組みであるが、直径74cmの狭い桶を利用し、深さ6.3m以上も掘り下げる工法は特殊であり、他に類例を見ない。

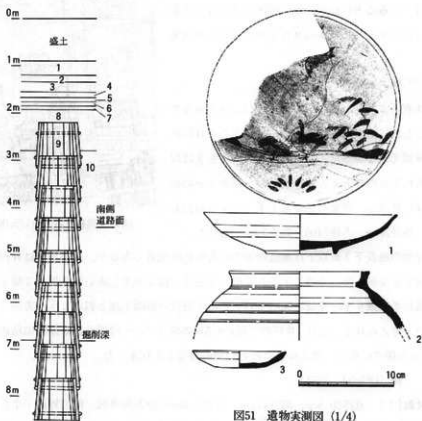


図51 遺物実測図 (1/4)

- 1 暗灰色泥砂
- 2 暗黄灰色砂泥
- 3 暗黄灰色・黄灰色砂泥
- 4 黄灰色粘土
- 5 茶灰・黄灰色粘土
- 6 灰黄色粘土
- 7 黄褐色砂泥(粘質)
- 8 暗黄灰色砂泥
- 9 暗灰色砂泥(青灰色混)
- 10 淡青灰色砂泥(粘質)

図50 遺構断面模式図 (1/80)

5 伏見城跡 (93FD251)

調査経過

伏見区桃山町松平筑前10-3-11-18番地において住宅が建築されることになり、その基礎掘削工事に伴う立会調査を1993年10月13日から10月15日の間に3回実施した。

遺構 (図版35、図53・54)

調査地は、南面道路から北側に向け緩やかに高くなり、北端のNo.1地点はさらに一段高くなっていた。敷地中央部のNo.4地点では約20cm高くなっており、大きな土壌を検出した。検出面は盛土層直下で、深さ1m、幅3.1mで、埋土の炭を含む第4層から土師器と多量の瓦類が出土した。

遺物 (図版36・37、図55・56・57)

土壌から9点の金箔を施した軒瓦、1点の道具瓦を含め多量の瓦類と数点の土師器を採集した。また、他の調査地点でも12点の軒瓦、道具瓦を採集した。



図52 調査位置図 (1/5,000)

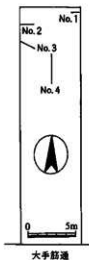


図53 遺構位置図 (1/400)

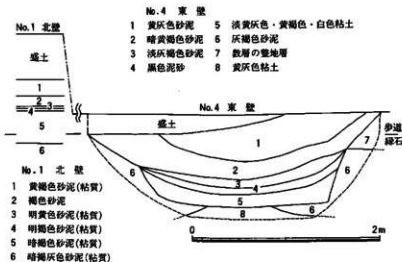


図54 遺構断面図 (1/40)

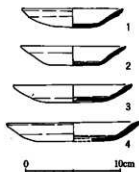


図55 遺物実測図 (1/4)

土器類 (図55)

土器器皿(1~4) 粘土質で緻密である。口径が10.8cmと14.4cmの2種あって小皿・中皿である。内面は、細いナデ仕上げで幅広の圏線の入るものとはっきりしないものがある。織豊期の様子をよく示しているものと考えられる。

瓦類 (図56・57)

巴文金箔軒丸瓦(1~5) 金箔の残りはさほど良好ではない。(1・2・5)は同瓦と思われるもので三巴文の丘頂が平坦である。中心から左廻りの尾部は細くなって連結している。

連珠は16個である。3は三巴の中心が少し離れており小さい。連珠は14個であると思われる。4は三巴文が丘状で、左廻りの尾部は線太である。連珠は16個と推定される。

重菊文金箔軒丸瓦(6~8) (6)は、文様部が大きく外縁部は細い。金箔の残りは最も良好である。(7・8)は、文様部が小さく、筈に木目痕が残る。(9)は、外縁部がないもので挿瓦の類に入るものと考えている。

梅鉢文金箔軒丸瓦(10) 梅紋の中の種類として剣梅鉢紋に入るといえる。中央の円と外円とを軸でつなぎ、軸の間にそれぞれ剣形を配するが、瓦紋となったとき軸は略されたものと思われる。調査地は前田利家上屋敷跡に隣接しており、この文様は、前田家か、同紋を使用する家柄のものと考えよう。

均整唐草文軒平瓦(11・12) 非常に簡略化された瓦で、中心飾りの外は二転の唐草のみである。

道具瓦(13~17) (13~15)は棟飾りに使用した鬼瓦、(16)は鮫瓦の一部である。(17)は中央部に釘穴をもつ六角形飾瓦であり、中心部に文様を配している。(吉村)

まとめ

過去の伏見城跡における調査では石垣・建物・堀などの遺構が良好に遺存することが知られている。今回の調査地近くで実施された発掘調査でも同時代の遺構を検出している。調査地が「松平筑前」の町名を残すことからその調査成果が期待された。遺構上面が削平された当地で今回検出したのは瓦を廃棄した土壌のみで、屋敷跡に係るような明確な遺構は検出できなかったが、敷地北側の隣地は一段高くなっており、No.1地点の土層状況から考えて遺構の残存が期待される。今回は金箔軒瓦などが21点出土し、貴重な資料を加えたことになる。

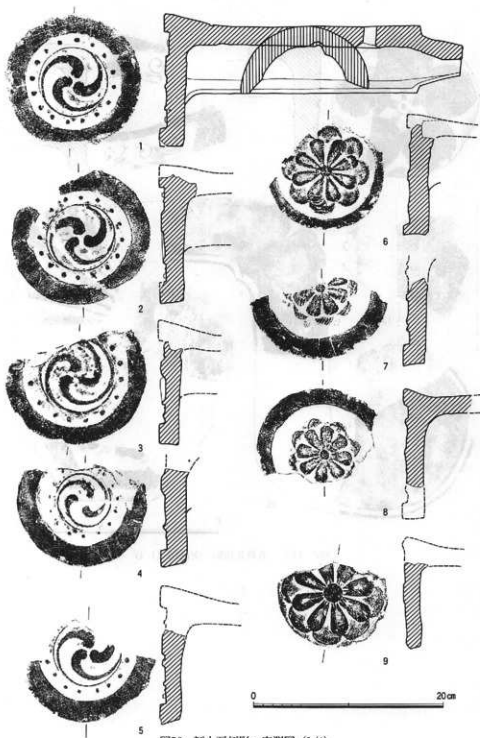


图56 軒丸瓦拓影·实测图 (1/4)

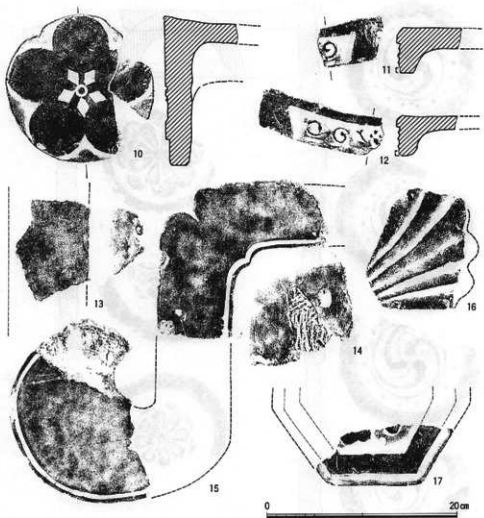


图57 軒瓦、道具瓦拓影・実測图 (1/4)

6 下鳥羽遺跡 (92TB325)

調査経過

調査地は、伏見区下鳥羽渡瀬町24-1番地他に所在する。調査は、関西電力の送電用鉄塔建替に伴うもので、仮設・撤去・新設工事に際して実施した。期間は1993年1月13日から5月7日まで、延べ9日間にわたって4地点で10箇所の調査を実施した。

当地は、弥生時代から中世の遺物散布地である下鳥羽遺跡にあたる。昭和61年度の調査では古墳時代の竪穴住居・孤立柱建物跡が、昭和62年度の調査では弥生時代の溝・土壇・方形周溝墓状遺構・竪穴住居跡が発見されている。

今回の調査では、A地点で池状堆積層、B地点で弥生時代前期の遺物包含層・落込み・土壇、弥生時代後期の溝、C地点で弥生時代から平安時代にかけての遺物包含層・土壇・落込み・溝・柱穴、D地点で弥生時代の落込みを検出した。

遺 構 (図版38、図59・60・61)

A地点では、敷地南側の歩道面から測り81cmで現耕土面となる。以下、旧耕土と思われる砂泥層があり、2.2m以下より掘削深2.56mまでシルトの池状堆積層で、その最下層から弥生時代の土器片を採集した。

B地点では、掘削工事ですでに大半が破壊されており、工区の南西端のわずかな区域のみ調査が可能であった。現耕土が削平され、旧耕土を地表として計測した。地表下42cm(標高12.11m)で、北東から南西方向の溝を2条確認した。南側の溝(SD3)は、幅60~70cm、深さ34~44cm、北側の溝(SD4)は、幅60cm前後、深さ28cmである。また調査区北端の地表下30~40cmで、東西方向に延びる落込み(SX5)の南肩口を検出し、その南東部で南北方向の溝(SD6)を検出した。両溝は、出土遺物・埋土の状況から同一時期と考えられる。いずれの埋土からも平安時代後期から末期の遺物が出土した。さらに地表下50cmで検出した東西溝(SD2)は、幅70cm、深さ62cmで、埋土から弥生時代第V様式のほぼ完形の甕、器台が出土した。調査区西端の地表下56cmでは北西から南東方向に延

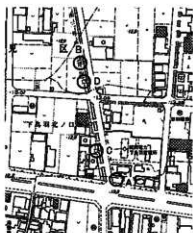


図58 調査位置図 (1/5,000)

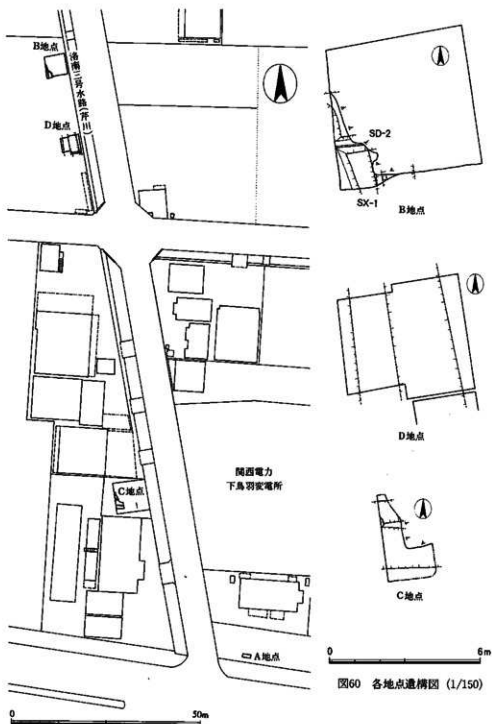


图59 調査地点位置图 (1/1,000)

图60 各地点遺構图 (1/150)

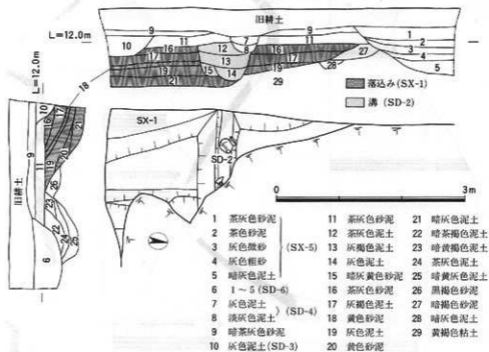


図61 B地点遺構実測図 (1/60)

びる落込み (SX 1) の東肩口を確認した。比較的大きな溝であることが考えられる。落込みの埋土より畿内第 I 様式の壺・甕・蓋が出土した。

C地点では、3箇所の調査で、地表 (前面道路面) 下55cm前後にて、暗灰褐色砂泥層を切って土壌7基、落込み1基、柱穴1基、東西溝1条を検出した。埋土に須恵器を含む遺構と、弥生土器だけが出土する遺構がある。

D地点では、5箇所の断面観察で、南北方向の溝1条、落込み1基を検出した。溝は幅2.2~2.5m、深さ50~70cmで、埋土より弥生土器が出土した。落込みは西に落ちる肩口を確認したのみで規模は不明。遺物はなく時期不明であるが、南北方向の溝になると考えられる。

遺物 (図版39・40、図62・63・64)

(1~14) は、SX 1より出土した畿内第 I 様式の弥生土器である。(15~19) は、SD 2から出土した第 V 様式に属する土器であると考えている。

壺形土器(1) 口縁部に小穴が穿孔されている。同一固体であると思われる破片はある

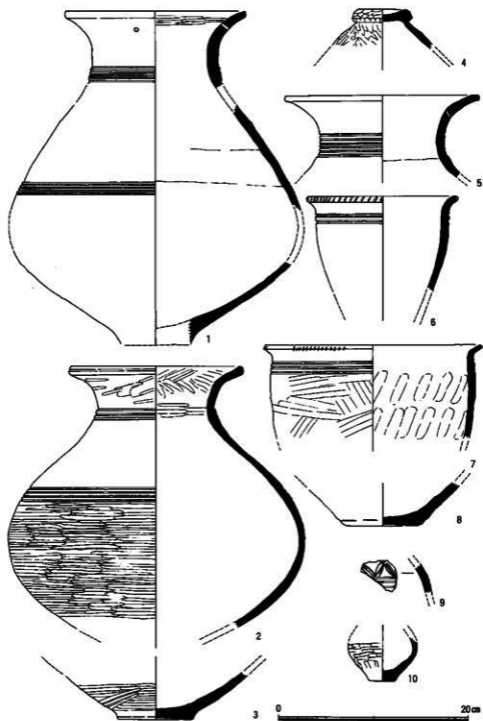


图62 遗物实测图 (1/4)

が、完全に復元できなかつた。図上復元を試みたのがこの図62- (1) で、口縁から頸部へは横方向のヘラミガキが施され、頸部に削り出しの4本の突帯文が付く。胴部にも4本の凹線が付くが上端が削り出しで下端は削り出してない。外面調整はいずれもヘラミガキである。

壺形土器(2) 口縁部から頸部へは外面が右上がりのヘラミガキ、内面は綾杉状のヘラミガキが、下方は平行ヘラミガキである。胴部はほぼ円形を程する。胴部の凹線文は削り出さないで四条の横線を入れている。以下は横方向のヘラミガキにより丁寧に仕上げ調整されている。底部は欠損している。

壺形土器(3) (2) と非常に近い関係にあると思われる。底部で両方に広く開くものである。

壺(4) 上部のつまみ部分を削り出して凹部を作っている。赤褐色の色調を示す。

壺形土器頸部(5) 六条の凹線文が頸部に直接引かれており、他はすべてヘラミガキが工具によるゆるいナデ仕上げ調整がある。内面には、粘土紐巻き上げ痕が残っている。

壺形土器(6) 口径16cmの小型甕である。口縁部に刻目文を入れ、頸部に二条の凹線文が入る。内面の口縁部はヨコナデが、胴部は指圧痕がよく残っている。外面は口縁付近がヨコナデ、下半はタテナデになる。

壺形土器(7) 口径23cmの中型の甕である。口縁部には14刻の刻目が間欠的に入る。頸部には、三条の凹線がある。内面には成形時のあて痕があり、外面には不規則な工具によるナデが全面に付く。

壺形土器(8) 底部の破片で色調は黄白色を程する。

壺形土器(9) 胎土が明褐色の小片である。三条の凹線と細いヘラ描き木葉文が胴部に付くもので、一葉は四本線で描かれている。

小壺(10) 胴部のみ残存していたもので、横方向の工具によるミガキが見える。

壺形土器(11・12・14) 口径が21~30cmあり、比較的大きい甕である。(11) は、口縁部に間欠的な刻目を施し、頸部に一条の凹線がある。内面は粘土巻き上げの後、成形時に入ったアテ痕がある。(12) は、口縁部に全面刻目を施し、胴部に工具による薄いハケメが入る。(14) は口縁部は無文で、胴部上半に三条の凹線があり、胴部まで縦ハケメが入る。

壺形土器(13) 口径は28cmあり、口縁部が大きく外反し、やや薄くなる。内、外面共に細いハケメが残る。

壺形土器(15) 口径13cmで、口縁部に円形浮文を配している。頸部から口縁に向け、三

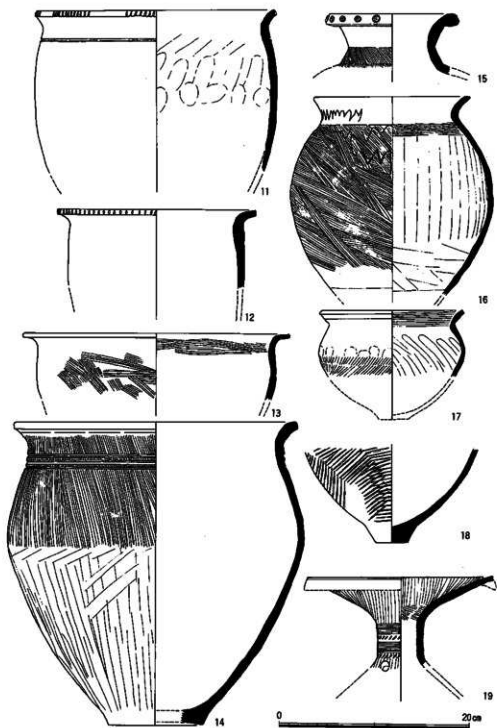


图63 遗物实测图 (1/4)

段の変化点を持って外反し、胴部には縦方向のハケメが入る。表面の色調は赤褐色である。

壺形土器(16) 口径16.6cmある。口縁部と胴部上半にへら描の不整形波状文が入る。内面の頸部に横ハケメが、胴部は縦ナデ、下半は横ナデが入り、外面は右下りの細いハケメが全面に入る。

壺形土器(17) 口径15cmの胴の短いもので、口縁内側にカキ取り状の横ハケメ、胴部は右下りの指ナデが入る。胴部の外面には右上りのタタキが入る。

壺形土器(18) 比較的幅広のタタキが右上りに打たれている。

器台形土器(19) 口径20cmあり、脚部下半は欠失する。口縁部の張り付け部分が剥離している。台部内面は、脚部近くまで丁寧な縦



図64 彌生土器 (20)

ミガキが入る。脚部内面はハケメ状のカキ取り、台部外面はへらミガキ、脚部に五条の横線が二段と、刺突文が二段と円形透しが入る。

壺形土器片(20) 頸部から胴部にかけての部分に二条の凹線が入る。胎土は、生駒西麓の特徴である黒雲母を多く含み、色調は暗茶褐色を呈している。畿内第I様式の段階から他地域の土器が流入していることを示す好例である。

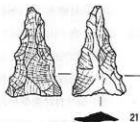


図65 石鎌実測図 (1/1)

石鎌(21) やや白っぽいサヌカイトで、かなり磨滅しており、刃部はさほど鋭くなく、剥離痕も観察しにくい。床土層より出土した。

これらの土器群の型式編年は、(1~14)が畿内第I様式中葉を、(15~19)は第V様式でも前半を考えている。(吉村)

まとめ

今回の調査B地点から北西約300mの地点で実施された発掘調査^{第1}では、古墳時代・平安時代の遺構が確認されている。同じくB地点から北東約100mの地点での発掘調査^{第2}では、弥生時代前期から中世までの遺構が確認されている。今回の調査でも、B・C・D地点で弥生時代前期から平安時代にかけての遺構を確認しており、遺構内容は前調査と似ている。京都市発行の遺跡地図では弥生~古墳時代の遺物散布地となっているが、近年の調査地周辺における立会・試掘・発掘調査の成果を総合すると、今回の調査地点と前記発掘調査地点を中心とする弥生時代の集落跡が想定できる。その範囲は、A・C地点間より北側、調査

地の北約60mにある下鳥羽公園南半分より南側、新油小路通より西側に位置すると判断できるが、西側の範囲は調査例が少なく推定できない。

平野部の湿地や湖沼に臨む低湿地集落には、九州板付遺跡を始めとして環濠がめぐるものが多い。今後、遺跡の範囲を確定するには、濠などの遺構を発見することが重要となる。

遺物の上では、畿内第Ⅰ様式の内、(中)段階に属するが、(新)に近いもの^{註3}と考える。これら遺物は山城盆地初期弥生文化を考察するうえで、極めて重要である。今後、西側の下鳥羽市営住宅周辺での調査が望まれる。

註1 辻 裕司・磯部 勝「下鳥羽遺跡」『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』(京都市埋蔵文化財研究所 1989年)

註2 前田義明・磯部 勝「下鳥羽遺跡」『昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要』(京都市埋蔵文化財研究所 1991年)

註3 佐原 真「山城における弥生式文化の成立」『史林』第50巻5号 1967年
(古) 壺の区分紋様として段の使用が盛んだが、まだ削り出し突帯を有していない段階。
(中) 区分紋様として段をもちいるほか、削り出し突帯が出現した段階。
(新) 張り付け突帯があらわれ、また、篋(ヘラ) 描き直線文が多条化し、区分紋様が帯状紋様に変質した段階。

調査一覧表

I 1992(平成4)年度 1～3月期

平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
大 麻	上・仁和寺街道七本松東入99-9	1/20	盛土のみ。	H Q 341	3
	上・六軒町通仁和寺街道下の西入四番町151-63	2/15	巡回時、工事終了。	H Q 356	3
右近衛府	上・御前通下立売上る三丁目西之上町278	1/18	巡回時、工事終了。	H Q 331	3
内 藤 寮	上・下長者町通千本東入二本松町6-6	3/24-29	盛土のみ。	H Q 418	3
	上・下長者町通千本西入六番町375-10	3/24-25	盛土のみ。	H Q 419	3
織 殿 寮	上・上長者町通土屋町東入山王町495	3/9-11	盛土のみ。	H Q 399	3
内 藤 寮	上・淨福寺通下立売上る田中町477-40	3/19	盛土のみ。	H Q 412	3
宴の松原	上・下長者町通七本松西入鳥居町247-4	2/18-19	検出できず。	H Q 364	3
内 藤 寮	上・御前通丸太町上る下之町414	3/8	盛土のみ。	H Q 388	3
南 東 雑 所	上・日暮通下立売上る西入分銅町568	1/19	巡回時、工事終了。	H Q 335	3
左 馬 寮	上・松屋町通橋木町上る二丁目633-5	2/25	検出できず。	H Q 372	3
典 義 寮	中・西ノ京右馬寮町1-11	3/9-11-12	地表下1.5m以下、湿地地積。	H Q 400	3
豊 樂 院	中・西ノ京車坂町2	1/8-12	盛土のみ。	H Q 326	3
	中・飛樂稲南町19-40	2/26, 3/1	盛土のみ。	H Q 378	3
朝 堂 院	中・飛樂稲南町8	3/15-16	検出できず。	H Q 406	3
	上・千本通下立売下る釋樂町472	3/26-29	盛土のみ。	H Q 421	3
主 水 司	上・下立売通千本東入下る中藤町486-57	2/26, 3/1	盛土のみ。	H Q 376	3
宮 内 省	上・智慧光院通丸太町下る主祝町1233	2/16	巡回時、工事終了。	H Q 361	3
式 部 省	中・西ノ京式部町21	1/8-12	検出できず。	H Q 327	3

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
北辺二坊 八町	北・大將軍西町195	3/31	盛土のみ。	H R 428	5
二条四坊十二町	右・太秦安井御通町14-1 安井小学校	1/22-25	地表下0.8mにて平安中期の包含層。	H R 345	4
二条四坊十四町	右・太秦安井土ノ内町16-1	3/3-5	地表下0.45mにて重町の包含層。	H R 381	4
	右・太秦安井池田町20-4他	'92/11/2 '93/3/2	地表下0.8m以下、平安後期の包含層。	H R 272	4
三条一坊 八町	中・西ノ京星池町17-1他	2/18-20, 3/18-24	径1.3mの柱穴2例検出、平安時代、本文5ページ。	H R 415	5
四条二坊 七町	中・壬生西大竹町地先	'92/6/19 '93/3/5	地表下0.28mにて平安の包含層。	H R 109	9
四条二坊 九町	右・西院東今田町16、19	2/16-19-22	地表下0.96m以下、平安の遺物を含む 湿地地積。	H R 360	9
六条一坊 三町	下・中堂寺南町1-5	1/27, 3/31	検出できず。	H R 350	9
六条一坊十五町	下・中堂寺庄ノ内町54-7・1	3/17-19	地表下1.0mにて平安の包含層。	H R 408	9
六条二坊 三町	下・中堂寺通、西土居通～天神通地内	3/1-3-8	地表下0.75m以下、流れ堆積。	H R 380	9
六条四坊十三町	右・西京福西大丸町45	2/5-8	地表下1.15m以下、湿地地積。	H R 396	8
七条二坊十二町	右・西七条衣田町他	'92/10/13 '93/3/2	地表下0.7mにて平安の遺物を含む流れ 堆積。	H R 238	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
八条一坊十二町	下・梅小路頭町10	3/4-5	地表下1.0mにて平安前期の溝または土塊。	H R 387	13
八条一坊十三町	下・梅小路頭町10 J R構内	3/29-31	地表下1.4m以下、湿地地塊。	H R 422	13
八条四坊 西町	南・吉祥院向田東町2	2/18-22	盛土のみ。	H R 366	12
九条一坊 十町	南・磨橋門前町35	3/9	検出できず。	H R 401	13

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
北辺三坊 五町	上・鳥丸通、武者小路通～中立先通地内	2/12～23	地表下0.3m以下、鎌倉～室町の包含層、室町の落込み。	H L 355	7
二条二坊十六町	上・小川通丸太町上る鍛冶町333	92/4/11, 93/5/11	地表下0.78m以下、整地層、室町～桃山の包含層、桃山～江戸の落込み。	H L 30	6
二条三坊 九町	上・室町通丸太町上る大門町270	2/4	地表下1.2mにて時期不明の包含層。	H L 353	7
二条四坊 七町	中・柳馬場通竹屋町上る四丁目194	92/8/6, 93/5/12	検出できず。	H L 166	7
三条一坊 三町	中・西ノ京南室町11-12、17	1/13-19	検出できず。	H L 330	6
三条一坊 七町	中・西ノ京職司町67-78	2/22～24	検出できず。	H L 368	6
三条二坊 五町	中・猪熊通錦小路下る姉織館町314、314-1	3/22-26	検出できず。	H L 414	6
三条三坊 十町	中・西登町通押小路下る金吹町455	3/1	地表下1.4mにて時期不明の包含層。	H L 373	7
三条三坊十四町	中・鳥丸通御地東入梅屋町358	2/23-25	検出できず。	H L 370	7
四条一坊 七町	中・壬生馬場町37-4他	2/18、3/1	地表下1.0mにて平安の包含層。	H L 365	10
四条二坊 三町	中・風門通錦小路下る下黒門町444	2/26、3/3	地表下0.36m以下、平安末期の包含層。	H L 379	10
四条二坊 西町	中・新ノ町通錦小路下る藤岡町512-1・2	1/18-19	地表下0.5mにて平安の包含層。	H L 336	10
四条四坊 一町	中・六角通東洞院東入藤屋町191他	3/25-4/28	地表下0.89m以下、室町の包含層、土塊。	H L 420	11
五条二坊 一町	下・四条通黒門下る下り松町168	1/29、2/5	検出できず。	H L 347	10
五条二坊十五町	下・仏光寺通、池小路通～鳥丸通他地内	1/22～3/2	地表下0.2m以下、時期不明の路面、室町の包含層。	H L 344	10
五条四坊十五町	下・仏光寺通、寺町通～河原町通地内	3/9～27	地表下0.1m以下、路面、室町の包含層。	H L 397	11
六条一坊 六町	下・中堂寺壬生川町7-8	3/31、4/30	検出できず。	H L 429	10
六条二坊 十町	下・五条通池小路西入北御小泉町99、101-2	2/15-18	地表下0.64m以下、古墳の遺物を含む流れ堆積。	H L 357	10
六条四坊 二町	下・東洞院通五条上る深草町589地先	3/22-26	地表下0.75m以下、江戸の包含層。	H L 413	11
六条四坊 三町	下・五条通東洞院東入万寿寺町137	3/10-15	検出できず。	H L 402	11
七条一坊 一町	下・下之町～中之町他	92/11/18 ～93/2/4	地表下0.5m以下、湿地地塊。	H L 291	9-10
#	下・中堂寺坊城町 市有地	1/18	検出できず。	H L 337	10
七条一坊 七町	下・壬生川通、五条通～七条通地内	92/11/4 ～93/1/18	地表下0.76mにて平安の土塊。	H L 274	10
七条三坊十五町	下・鳥丸通花屋町下る高槻町348	3/4-5	地表下1.7m以下、弥生～古墳の包含層、時期不明の整地層、室町の包含層。	H L 392	11
七条四坊 二町	下・上埴敷町通、東洞院通～間之町通地内	3/30、4/1	攪乱のみ。	H L 427	11
八条二坊 一町	下・猪熊通木津屋敷上る樽屋町387	2/4-8	地表下0.55m以下、平安前期、後期の土塊、時期不明の路面。本文26ページ、巡回時、工事終了。	H L 352	12
八条二坊 西町	南・西九条寺ノ前町～川原城町地先	3/8		H L 391	12

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
八条三坊十六町 八条四坊 八町	下・東洞院通七条下る堀小路町523 下・七条通、堀川通～河原町通他地内	3/29 92/12/11, 92/2/5	地表下0.91mにて雑草の包含層。 地表下0.4m以下、七条大路路面、雑草 ～江戸の包含層。	H L 426 H L 308	13 13
九条一坊 九町 九条二坊 二町	南・東寺町548 南・大宮通、針小路通～九条通地内	2/26-3/1 1/11-2/3	地表下0.82m以下、流れ堆積。 地表下0.6mにて平安の包含層、時期不 明の路面。	H L 377 H L 329	12 12
九条三坊 二町	南・東寺道、袖小路通～室町通他地内	92/11/30- 92/2/9	地表下1.3m以下、流れ堆積。	H L 296	13

太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
瓦 瀬 跡	右・梅ヶ畑高鼻町地先	3/18-11/12	検出できず。	UZ 411	

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨南野々神町1-1 ノートルダム 女子大学	1/11・12	盛土のみ。	R H 328	
"	北・上賀茂松本町51	2/1・4	検出できず。	R H 348	
"	北・上賀茂烏帽子ヶ池内町1 上賀茂小 学校	3/2-4/20	地表下0.4mにて雑草の土壌。	R H 382	
"	北・上賀茂梅ヶ辻町4-1	3/18	地表下0.15mにて時期不明の包含層。	R H 410	
紫野斎院跡	上・大宮通寺ノ内上も三丁目北仲之町 506-3	2/4・18	検出できず。	R H 349	

北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
沖殿町遺跡	左・修学院沖殿町1 修学院小学校	3/3-26	地表下0.32mにて平安中期の包含層。	KS 383	
京都大学北郭内遺跡	左・北白川西町73-2、3	3/18-22-24	地表下0.75mにて北東から南西に続く 雑草の落込み、時期不明の土壌。	KS 409	
京都大学本郭内遺跡	左・浄土寺西田町～浄土寺下馬場町他 地内	92/10/19 93/1/27	地表下0.2m以下、雑草後期～室町前期 の落込み、路面、湿地堆積。	KS 242	14
"	左・吉田本町1-13	1/19-26	地表下0.41m以下、時期不明の包含層、 落込み。	KS 338	14
京都大学北郭内遺跡	左・吉田二本松町21-4	1/18	地表下0.4m以下、雑草の土壌、室町の 落込み、時期不明の包含層。	KS 332	14
京都大学南郭内遺跡	左・聖護院川原町53 京都大学付属病院	2/19・24	地表下0.54m以下、時期不明の包含層。	KS 363	14
尊勝寺跡	左・岡崎院勝寺町13	92/12/21 93/2/8	盛土のみ。	KS 319	14
岡崎遺跡					
白河街区跡	左・北門前町	92/4/2 93/4/27	地表下0.6mにて平安後期、末期の土 壌、平安の包含層、平安後期～雑草の	KS 2	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
白河街区跡	左・聖護院山王町43-5	2/10	整地層。 地表下0.5mにて時期不明の包含層、時期不明の落込み。	K S 354	14
#	左・聖護院東町16-2	2/25・26、 3/2	地表下0.5mにて時期不明の落込み。	K S 374	14

洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
中區遺跡	山・栗栖野草ノ木町地先	1/18	検出できず。	R T 334	
#	山・勧修寺西金ヶ崎39-2	3/2	断面にて時期不明の土壌、柱穴、溝。	R T 384	
#	山・栗栖野打越町7-17	3/5	検出できず。	R T 393	
#	山・栗栖野打越町7-17	3/5	検出できず。	R T 394	
#	山・勧修寺東金ヶ崎31-4、33-3	3/16	盛土のみ。	R T 407	
安祥寺下寺跡	山・安米横敷町	3/11	検出できず。	R T 403	
勧修寺旧境内	山・勧修寺福岡町20-5、72-2	3/15	盛土のみ。	R T 405	
法興院跡	上・河原町通、丸太町通～二条通地内	2/23～3/15	埋土のみ。	R T 371	
六波羅政庁跡	東・本町四丁目136、140	3/26、3/30	地表下1.42mにて時期不明の包含層。	R T 423	
法住寺殿跡	東・今熊野御ノ森町3-2	3/8-9	地表下0.72mにて時期不明の包含層。	R T 395	
法性寺跡	東・本町十五丁目 東橋守北駐車場	1/19	地表下0.7mにて桃山の地、南北幅8m。	R T 339	
鳥辺野	東・今熊野河津陀々塚町	1/18	検出できず。	R T 333	
#	東・清閑寺地田町37他	2/15-18	検出できず。	R T 359	

伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
伏見城跡	伏・桃山町本田上野63-14	1/6	盛土のみ。	F D 324	
#	伏・肥後町385	1/22-27	検出できず。	F D 346	
#	伏・新町十三丁目285	2/3-5	検出できず。	F D 351	
#	伏・桃山町伊賀8	2/18	盛土のみ。	F D 362	
#	伏・肥後町389	3/10-12	地表下1.2mにて時期不明の土壌。	F D 398	
#	伏・東大手町768	3/12	地表下0.42m以下、時期不明の包含層。	F D 404	
#	伏・深草大亀谷東安借町105	3/31	検出できず。	F D 424	
法界寺旧境内	伏・日野西大道町5-2	3/3-5	地表下0.3mにて室町の落込み。	F D 389	

烏羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
烏羽羅宮跡	伏・竹田内畑町地先	2/15	地表下0.9m以下、悪地増積。	T B 358	15
#	伏・竹田樋ノ井町53、53-7	2/22	地表下1.2mにて時期不明の包含層。	T B 367	15
#	伏・中島前山町20-23、24	3/2	盛土のみ。	T B 386	15
#	伏・中島北ノ口町28-1	3/29	盛土のみ。	T B 425	15

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽渡瀬町24-1他	1/13-5/7	地表下1.14m以下、平安の溝、弥生後期の溝、弥生前期の溝込み。本文49ページ。	T B 325	15
"	伏・竹田松林町～北堀町地内	2/25-3/12	地表下1.57mにて流れ堆積。	T B 375	15
"	伏・下鳥羽芹川町 京都市道	3/3-19	地表下1.3m以下、弥生の包含層、弥生の池状堆積、鎌倉～室町の包含層。	T B 390	15
"	伏・北堀町21	3/23	地表下1.37mにて包含層、流れ堆積。	T B 416	15
唐橋遺跡	南・吉祥院西定成町他	3/5-4/16	地表下0.33m以下、泥炭堆積。	T B 430	

南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
下津林遺跡	西・下津林番地先	'92/8/26 ～'93/2/9	検出できず。	MK177	
上久世遺跡	南・久世上久世町355	1/19	盛土のみ。	MK340	
"	南・久世上久世町452-2	1/21	盛土のみ。	MK343	

長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
長岡京跡	伏・羽東師太川町211-1、210-1	1/20	地表下1.07m以下、小畑川の旧流路。	NG342	
"	伏・羽東師太川町233	2/22-25	検出できず。	NG369	
"	伏・波橋爪町457-3	3/25	盛土のみ。	NG417	

II 1993(平成5)年度 4～12月期

平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
正 観 司	上・仁和寺街道七本松西入下る鳳鳴町775-26	8/6	巡回時、工事終了。	HQ170	3
大 藤 省	上・下ノ森通仁和寺街道上る二番町194-26	7/8-15	検出できず。	HQ121	3
"	上・下ノ森通仁和寺街道上る二番町194-35	11/30, 12/1	検出できず。	HQ321	3
大 藤 藏	上・千本通一条上る妻重片原町地先	8/23	検出できず。	HQ179	3
"	上・中立先通浄福寺西入加賀屋町396-18他	5/20	巡回時、工事終了。	HQ46	3
"	上・仁和寺街道千本東入西富仲町683-6	7/8	巡回時、工事終了。	HQ122	3
"	上・千本通一条下る西側西中筋町19	9/10	地表下0.35mにて鏡山～江戸の包含層。	HQ210	3
"	上・上長者町通浄福寺西入山王町499、500	6/17-18	盛土のみ。	HQ99	3
"	上・六軒町通仁和寺街道下る四番町138	6/24、7/6	盛土のみ。	HQ106	3
"	上・中立先通千本東入加賀屋町385	8/5-6	検出できず。	HQ168	3
"	上・仁和寺街道六軒町西入四番町111	9/7	盛土のみ。	HQ205	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大 藏	上・七本松通一乗下る三軒町65-39	12/6-10	検出できず。	H Q 322	3
"	上・仁和寺街道六軒町西入四番町122、123	12/7-13	地表下0.2mにて桃山～江戸の包含層。	H Q 324	3
茶 園	上・松屋町通中立亮上る新白水丸町462	4/30、5/6	検出できず。	H Q 35	3
内 教 坊	上・日暮通上長者町上る須賀町571	4/1-2	盛土のみ。	H Q 2	3
"	上・松屋町通上長者町上る神明町445-2	8/6	地表下0.3mにて時期不明の包含層。	H Q 169	3
右 近 衛 府	上・御前通下立亮上る三丁目東入三助町281-2	4/13	盛土のみ。	H Q 14	3
"	上・御前通下立亮上る東入旗塚町257	6/2-3	検出できず。	H Q 80	3
"	上・下長者町通七本松西入鳳鳴町388-1	7/12	巡回時、工事終了。	H Q 127	3
"	上・御前通下立亮上る三丁目西上之町278-14	7/21-22	地表下0.3mにて平安中期の包含層。	H Q 145	3
"	上・下長者町通七本松西入鳳鳴町231-9	8/23	検出できず。	H Q 178	3
因 書 寮	上・下長者町通七本松西入鳳鳴町244-4	5/19-20	盛土のみ。	H Q 63	3
織 殿 寮	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町533-2	5/19-21	検出できず。	H Q 62	3
"	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町522-1	12/24	巡回時、工事終了。	H Q 348	3
"	上・上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町522-1	12/24	巡回時、工事終了。	H Q 349	3
左 近 衛 府	上・出水通大西入東天秤町135	4/6-7	地表下0.69m以下、時期不明の包含層。	H Q 4	3
"	上・大宮通上長者町下る東堀町629の一部	11/24	盛土のみ。	H Q 313	3
"	上・大宮通上長者町下る東堀町629の一部	11/24	盛土のみ。	H Q 314	3
職 御 曹 司	上・裏門通出水上る白銀町251-8	7/7	巡回時、工事終了。	H Q 126	3
内 膳 司	上・千本通出水下る十四軒町413-46	5/10-11	盛土のみ。	H Q 50	3
"	上・出水通千本東入尼ヶ崎横町350-4	9/24	盛土のみ。	H Q 229	3
内 裏	上・土屋町通出水上る弁天町311-10	9/24、10/5	検出できず。	H Q 230	3
"	上・千本通下立亮下る小山町908-84	10/5-12	地表下0.34mにて平安の包含層。	H Q 246	3
"	上・裏門通出水上る白銀町246	10/20-21	盛土のみ。	H Q 264	3
"	上・裏門通下長者町下る白銀町246	11/17-19	盛土のみ。	H Q 302	3
"	上・下立亮通土屋町下る小山町908-82	12/2	盛土のみ。	H Q 327	3
中 和 院	上・下立亮通千本東入田中町4-5	7/27-29	地表下1.18m以下、平安中期の整地層。	H Q 152	3
"	上・下立亮通千本東入田中町433	8/2	巡回時、工事終了。	H Q 160	3
宴 の 松 原	上・出水通千本西入七番町323-1	8/4-9	検出できず。	H Q 165	3
"	上・下長者町通六軒町西入利生町294	11/2	盛土のみ。	H Q 285	3
"	上・下長者町通六軒町西入利生町294	11/2	盛土のみ。	H Q 286	3
"	上・仁和寺街道七本松下る二番町211-6	12/6	検出できず。	H Q 323	3
真 言 院	中・聚楽園中町30-5	12/13	盛土のみ。	H Q 339	3
右 兵 衛 府	上・御前通下立亮上る天満橋町326	4/23	盛土のみ。	H Q 26	3
南 所	上・下立亮通智恵光院東入中村町地先	6/17-3/24	地表下0.5mにて平安前期の包含層。	H Q 100	3
内 匠 寮	中・西ノ京左馬寮町29、48	9/6	地表下0.3mにて時期不明の落込み。	H Q 207	3
造 酒 司	上・下立亮通七本松西入西東町369-3、372-4	6/16	盛土のみ。	H Q 94	3
東 雅 院	上・日暮通榎木町上る榎竹町700、701	7/16	盛土のみ。	H Q 137	3
左 馬 寮	中・西ノ京左馬寮町10-22	8/2-5	検出できず。	H Q 161	3
典 薬 寮	中・西ノ京車坂町2-6	5/12	巡回時、工事終了。	H Q 55	3
豊 楽 院	中・聚楽超西町188-33	5/12-19	検出できず。	H Q 54	3

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	調査№	図版
朝 堂 院	中・築港通東町31-20	7/5	巡回時、工事終了。	HQ115	3
#	上・千本通二条下る東入主税町803-2	7/6	地表下0.25mにて炭を含む層。	HQ117	3
#	上・千本通二条下る築港町863-5	11/22	盛土のみ。	HQ311	3
大 膳 職	上・松屋町通九太町上る三丁目655	10/20-21	検出できず。	HQ265	3
太 政 官	上・千本通九太町東入主税町1037-2	7/30, 8/3	地表下1.2m以下、時期不明の包含層。	HQ157	3
#	上・千本通二条下る東入主税町1045	9/20	検出できず。	HQ216	3
大 炊 寮	上・日暮通九太町下る南伊勢屋町766-1	4/26-27	盛土のみ。	HQ31	3
右 馬 寮	中・西ノ京右馬寮町6-41	8/4	巡回時、工事終了。	HQ166	3
#	中・西ノ京右馬寮町1-7	9/21	盛土のみ。	HQ219	3
治 部 省	中・西ノ京内畑町11-12	8/2	盛土のみ。	HQ162	3
刑 部 省	中・西ノ京内畑町17-11・12	9/10	検出できず。	HQ214	3
式 部 省	中・西ノ京式部町20-2	10/4	地表下0.5mにて平安の瓦葺、鬼瓦、軒平瓦。本文3ページ。	HQ243	3

平安京右京 (HR)

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	調査№	図版
一条二坊 三町	上・上の下立先通御前西入大宮町488-1・7・8	8/26, 9/9	地表下0.65mにて平安の包含層。	HR189	5
一条二坊十一町	上・上の下立先通御前西入二丁目堀川町537-1	9/28	地表下1.66mにて江戸の包含層。	HR235	5
一条四坊十五町	右・花園大蔵町1・2, 9-3他	11/2	地表下0.1mにて時期不明の包含層。	HR278	4
二条一坊十三町	中・西ノ京南大炊御門町地先	11/22, 12/13	検出できず。	HR312	5
二条二坊 九町	中・西ノ京内町47・47-4	9/9	検出できず。	HR206	5
二条二坊十一町	中・新二条通、西大路一御前通他地内	10/4~11/15	地表下1.16m以下、湿地堆積、落込みの東層。	HR240	5
二条二坊十四町	中・西ノ京北壺井町53	10/7-12	盛土のみ。	HR252	5
三条一坊 二町	中・西ノ京柳尾町3-11他	10/22~11/2	地表下1.0mにて布目瓦とともに弥生土器出土。発掘調査に切替える。	HR276	5
三条二坊 三町	中・御池通~三条通、西大路通~御前通地内	5/19-7/19	地表下0.54mにて時期不明の包含層、湿地堆積。	HR64	5
四条一坊 三町	中・壬生御所ノ内町44, 47-3	9/6-9	検出できず。	HR208	9
四条一坊十二町	中・壬生森町28-1	5/10-19	検出できず。	HR36	9
四条一坊十三町	中・壬生森町56-8・9	8/30	巡回時、工事終了。	HR195	9
四条二坊 八町	中・壬生西大竹町19	8/4-6	地表下1.0mにて平安の包含層。	HR167	9
四条三坊 六町	右・西院奉楽町52	9/10	地表下0.33mにて平安の包含層。	HR211	8
四条三坊 七町	右・西院下花田町6-1	7/22	地表下0.83mにて時期不明の落込み。	HR147	8
四条三坊十四町	右・山ノ内赤山町23	11/17	地表下0.5mにて時期不明の包含層。	HR303	8
四条四坊 一町	右・山ノ内中畑町49	8/25-27	検出できず。	HR187	8
四条四坊 五町	右・西院四条畑町30-1	5/24-31	盛土のみ。	HR70	8
五条一坊十六町	中・御前通、四条通~松原通他地内	5/10-8/31	地表下0.55m以下、湿地堆積。	HR44	9
五条二坊 六町	中・高辻通、西土居通~御前通他地内	7/6-8/24	地表下0.5m以下、湿地堆積。	HR118	9
五条二坊 八町	中・壬生西土居ノ内町18	11/16-19	検出できず。	HR299	9
五条二坊十三町	右・西院矢掛町35	9/2	検出できず。	HR200	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
五条二坊十四町	右・西院矢掛町27-1	7/1	地表下0.55m以下、佐井川跡、佐井通の路面、平安前期の湿地堆積。本文11ページ。	HR109	9
五条三坊 五町	右・西院太田町26-1	7/26・28	地表下0.6m以下、壘町の包含層、平安の遺物を含む流路。	HR151	8
五条三坊 九町	右・西院沖町63-1、65、66	11/16-17	検出できず。	HR301	8
五条三坊十四町	右・西院日照町142	7/14・22	地表下0.46mにて平安の包含層。	HR136	8
#	右・西院日照町111	10/14・22	検出できず。	HR256	8
五条四坊 一町	右・四条通、葛野大馬通～美老田川地内	11/26、 12/17	地表下1.3m以下、湿地堆積。	HR318	8
五条四坊 二町	右・西院日照町47	10/ 15・18-21	地表下0.65mにて鞍山～江戸の包含層。	HR257	8
五条四坊 三町	右・西院日照町27-2	9/22	地表下1.9mにて時期不明の包含層。	HR221	8
六条二坊十二町	右・西院中水町他	5/13	検出できず。	HR58	9
六条三坊 五町	右・西院満地町5-2	10/4・29、 11/1	検出できず。	HR244	8
六条三坊十四町	右・西院久保田町6-6	8/23	検出できず。	HR184	8
六条四坊 九町	右・西院月友町80、81	7/16-28	地表下0.8mにて湿地堆積。	HR138	8
七条一坊 八町	上・七本松通、五条通～花屋町通地内	4/15-6/3	地表下1.0m以下、湿地堆積。	HR17	9
七条一坊 九町	下・西七条西八反田町7	5/10-19	盛土のみ。	HR49	9
七条二坊十五町	下・西七条名倉町7、8、9	6/10	擾乱のみ。	HR89	9
七条二坊十六町	右・西院中水町1	11/10-17	検出できず。	HR293	9
七条三坊 六町	右・西京極南庄境町66	11/26、 12/3	地表下0.3mにて湿地堆積。	HR319	8
七条三坊十一町	右・西京極三反田町18-1	6/1-3	検出できず。	HR79	8
七条三坊十六町	右・西京極豆田町32	6/7-11-15	地表下1.1m以下、湿地堆積。	HR83	8
八条三坊 五町	南・吉神院西ノ庄西浦町69	7/19-22	検出できず。	HR141	12
八条三坊 七町	下・七条御所ノ内西町81-3	4/9-19	検出できず。	HR9	12
八条三坊十五町	右・西京極下沢町1-5-9、2-2・4	11/5-8	盛土のみ。	HR290	12
九条一坊 四町	南・唐橋高田町52	4/26-30	地表下0.76m以下、流れ堆積。	HR32	13
九条一坊 十町	南・唐橋門跡町35 八条中学校	12/2-3	検出できず。	HR328	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町33	12/9-10	検出できず。	HR336	13
九条一坊十六町	南・唐橋門跡町17	11/5-8	検出できず。	HR289	13
九条三坊 一町	南・吉神院西ノ庄東屋敷町43	4/14-15	地表下0.7mにて平安後期の井戸、掘削底面で井戸2基、江戸の溝状遺構。	HR16	12
九条三坊十一町	南・吉神院中河原里北町50	4/5-8	盛土のみ。	HR6	12
九条三坊十五町	南・吉神院前河原町32	11/19-24	検出できず。	HR309	12
九条四坊十二町	南・吉神院中河原里西町11-2	7/22	巡回時、工事終了。	HR148	12

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
一条大路	上・一条通智恵院東入鏡石町24	12/9-13	地表下0.7mにて鞍山～江戸の焼土層。	HL331	6
一条二坊 九町	上・桂小路通下長者町上る亀屋町134-1	5/6	検出できず。	HL41	6
一条三坊 六町	上・出水通室町西入西出水町111	10/6	地表下1.55m以下、壘町～江戸の包含層。	HL245	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
一条四坊 二町	上・京都御苑	5/6~20	地表下0.4m以下、包含層、柱穴、礎石あり。	H L 42	7
二条二坊 一町	上・丸太町通大宮東入薬屋町530	7/1-8	地表下0.5mにて鎌倉~室町の土壌。	H L 108	6
#	上・榎木町通黒門西入中御門横町573	10/25, 11/1	検出できず。	H L 274	6
二条二坊 六町	中・夷川通堀川東入西夷川町	4/19-26, 5/6	検出できず。	H L 20	6
二条二坊十六町	上・西洞院通丸太町上る夷川町392	4/14	地表下0.6m以下、江戸以降の砂礫と整地層の互層。	H L 15	6
二条三坊 四町	中・夷川通、小川通~新町通地内	5/11~20	地表下0.13m以下、馬面、江戸の包含層。	H L 47	7
二条四坊 六町	中・榊町通夷川上る福屋町131	6/16-17, 7/7	地表下1.1m以下、時期不明の包含層、鶴山~江戸の土壌、整地層。	H L 92	7
二条四坊十三町	中・越屋町通二条上る布袋屋町493	12/15-16	地表下0.45m以下、鶴山~江戸の包含層。	H L 340	7
二条四坊十四町	中・御幸町通夷川上る松本町582	4/21-26-27	地表下0.66mにて鎌倉の土壌、室町の落込み、時期不明の整地層。	H L 23	7
三条二坊 五町	中・櫻川通三条西入橋西町666	7/14-15, 8/3	地表下0.68m以下、平安末期~鎌倉、鎌倉~室町の包含層、三条大踏路跡。	H L 129	6
三条二坊 七町	中・西洞院通御池上る滝元町地先	10/1	巡回時、工事終了。	H L 239	6
三条三坊 二町	中・西洞院通御池上る押西洞院町606	7/6-14	検出できず。	H L 116	7
三条三坊 三町	中・並座通御池下る津縣町774-1他	7/29, 8/6	地表下1.04mにて鎌倉の包含層。	H L 155	7
三条三坊 九町	中・室町通二条下る繪師町265-1	9/3-6-13	地表下1.98mにて室町の包含層。	H L 202	7
三条三坊十四町	中・烏丸通御池東入梅屋町358	8/30	検出できず。	H L 196	7
四条一坊 一町	中・壬生朱雀町7・8	9/24	検出できず。	H L 231	10
四条一坊十三町	中・大宮通錦小路下る錦大宮町151	8/25	検出できず。	H L 188	10
四条一坊十五町	中・大宮通六角下る六角大宮町225	4/1-2	盛土のみ。	H L 1	10
四条二坊 一町	中・黒門通三条下る下一文字町320-4	9/3	検出できず。	H L 204	10
四条二坊 六町	中・堀川通繪師下る四坊堀川町617、803-2、801	8/18	検出できず。	H L 172	10
#	中・繪師通堀川西入金屋町777	5/25-28, 6/1	地表下0.6m以下、時期不明の包含層。	H L 69	10
四条二坊 八町	中・岩上通三条下る下八文字町690-1	12/9-13	検出できず。	H L 335	10
四条三坊 九町	中・三条通烏丸西入御倉町66	7/15	検出できず。	H L 132	11
四条四坊 一町	中・三条通東洞院東入便屋町47-1	5/31-6/22	地表下1.45m以下、室町の包含層、土壌、注内土器を含む流路。	H L 77	11
四条四坊 六町	中・柳馬場通繪師下る十文字町448	4/26-27	地表下2.08mにて平安後期の井戸。	H L 29	11
#	中・錦小路通高倉東入中魚屋町495	4/30, 5/7	地表下1.31m以下、平安後期、鎌倉、室町の包含層。	H L 37	11
四条四坊 九町	中・三条通柳馬場東入中之町19	10/18-19	地表下0.7m以下、平安末期の土壌、桃山~江戸の包含層、落込み、本文13ページ。	H L 253	11
四条四坊十一町	中・繪師通柳馬場東入抽屋町129、131	8/19-23	地表下1.35m以下、鶴山~江戸の包含層。	H L 175	11
五条一坊十一町	中・壬生相合町26-5、28-6	11/26-30	地表下0.96mにて時期不明の包含層。	H L 317	10
五条一坊十三町	下・大宮通松原上る高辻大宮町1119	4/6-7	地表下1.17m以下、流れ堆積。	H L 7	10
五条二坊 二町	下・大宮通錦小路下る錦大宮町69-2	9/21-24	地表下0.63mにて時期不明の包含層。	H L 220	10
五条二坊 七町	下・岩上通錦小路下る榎金町400-6	7/9-28	地表下1.05m以下、平安後期の包含層、鎌倉の落込み、室町の包含層。	H L 124	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
五条二坊 八町	下・綾小路通堀川西入妙満寺町581-1、2、3	5/6-7・10-17	地表下1.0mにて平安後期の井戸、本文15ページ。	HL39	10
五条三坊 二町	下・綾小路通新町西入矢田町121	9/20-24	地表下0.42m以下、平安中期、末期、江戸の包含層。	HL222	11
#	下・綾小路通新町西入矢田町121	10/4-6	地表下0.95mにて江戸の包含層。	HL242	11
五条三坊 五町	下・松原通新町東入中野之町175	6/15-24	地表下1.65m以下、弥生後期の湿地地積、五条大踏踏面、御溝。本文19ページ。	HL96	11
#	下・新町通松原上る 御影町462-2	12/16-22	地表下0.65mにて時期不明の落込み。	HL342	11
五条三坊 七町	下・室町通仏光寺上る白楽天町509	7/19	地表下0.85m以下、室町の包含層。	HL134	11
#	下・室町通鞍小路下る白楽天町508	11/9	地表下1.48m以下、時期不明の包含層。	HL284	11
五条三坊 八町	下・室町通四条下る鳩神町491	6/10	地表下0.4mにて江戸の包含層。	HL85	11
#	下・室町通四条下る鳩神町491	10/20-22	地表下1.89m以下、古墳前期、平安～鎌倉の包含層、鎌倉、室町の土壌。	HL263	11
五条三坊十三町	下・烏丸通松原上る東薬師堂町700	9/6	地表下1.3m以下、江戸の遺物を含む地内堆積。	HL203	11
五条三坊十五町	下・四条通東洞院下る扇酒屋町	4/22	検出できず。	HL25	11
#	下・室町通鞍小路下る扇酒屋町293-2	11/1・12・15	地表下0.85m以下、室町の包含層。	HL277	11
六条一坊十五町	下・中堂寺橋筋町21、23	11/29、12/1	地表下1.04m以下、流れ堆積。	HL320	10
六条二坊 六町	下・猪熊通五条下る榎本町675-1	7/8-9	地表下0.52mにて平安後期～鎌倉の包含層。	HL123	10
六条二坊十六町	下・東中筋通松原下る天竺突抜一丁目353-4	6/4-8-21	地表下0.92m以下、平安末期～鎌倉の井戸、鎌倉～江戸の落込み、江戸の土壌。	HL76	10
六条三坊 二町	下・若宮通五条上る布屋町83-2	8/27	地表下0.45m以下、鎌倉の包含層、時期不明の土壌。	HL194	11
六条三坊 三町	下・西洞院通五条下る小柳町513	6/7-21	地表下2.32m以下、室町の流れ堆積。旧西洞院川にあたる。	HL81	11
#	下・若宮通五条下る毘沙門町35、36-1、38、39-1	9/29、10/5-6	地表下1.48m以下、室町の包含層、土壌、落込み。	HL236	11
六条三坊 七町	下・室町と新町の間の通五条上る小田原町232-12	10/13-14	検出できず。	HL255	11
#	下・室町通五条上る板東屋町285	11/19-30	地表下1.23m以下、平安後期の六条坊門小路、北御溝。本文23ページ。	HL305	11
六条三坊 十町	下・室町通五条上る板東屋町281-1・2他	9/20-28	地表下0.85m以下、平安後期の池状堆積、六条坊門小路の路面。	HL223	11
六条四坊 二町	下・榎町通五条上る後醍醐町232、233	9/17-21	検出できず。	HL215	11
六条四坊十五町	下・寺町通五条上る西橋詰町752	5/27-31	地表下1.47m以下、江戸の包含層。	HL75	11
七条一坊 四町	下・朱雀分水町 市有地	5/24	検出できず。	HL68	10
七条一坊十四町	下・大宮通丹波口下る大宮三丁目24	10/18-28	地表下0.92mにて江戸の湿地地積。	HL258	10
七条二坊 十町	下・西中筋通花屋町下る榎町94	11/15-18	地表下1.4m以下、平安前期の包含層。	HL295	10
七条三坊十三町	下・不明門通七条上る粉川町221-1他	6/10、7/15	地表下0.66m以下、平安末期～鎌倉の包含層、平安後期～鎌倉、室町の井戸。	HL88	11
七条四坊 一町	下・東洞院通六条下る橋詰町142	8/23	地表下0.85mにて江戸の包含層。	HL181	11
八条一坊 四町	南・八条御町44-7	11/25	地表下0.95m以下、肥後堆積。	HL315	12
八条一坊 八町	下・観音寺町3 大内小学校	4/12-13-15	地表下0.67mにて包含層。	HL12	12
八条一坊 十町	下・観音寺町1-14 梅小路公園	9/1	検出できず。	HL198	12

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図原
八条一坊十二町	南・八条町452	4/20, 5/6-12	地表下0.5mにて泥炭堆積。	H L 22	12
八条二坊 一町	下・七条道大宮東入大工町106	5/19-24	地表下0.54m以下、平安後期、末期の包含層、土壌、平安末期-鎌倉の落込み。	H L 56	12
八条二坊 七町	下・若上通堀小路上の三軒管地町123	6/18-21	盛土のみ。	H L 101	12
八条二坊 九町	下・油小路通下魚ノ棚下の油小路町485、487	8/9	地表下0.6m以下、平安後期の落込み、踏面、路面に伴う平安中期の溝。	H L 171	12
#	下・東堀川通下魚ノ棚下の銀屋町27	8/19	地表下0.9m以下、平安、時期不明の包含層、鎌倉の土壌、室町の落込み。	H L 177	12
八条二坊十六町	下・木津屋橋通油小路東入南町511	7/16	地表下1.0m以下、江戸の包含層、流れ堆積。	H L 133	12
八条三坊 八町	下・鳥丸通七条下の西入東堀小路町696-3	9/22	地表下0.2mにて時期不明の包含層。	H L 226	13
八条三坊十四町	下・堀小路通鳥丸下の東堀小路釜殿町	10/27	盛土のみ。	H L 273	13
八条四坊 一町	下・七条通間之町東入材木町503	4/21	盛土のみ。	H L 24	13
八条四坊 三町	下・堀小路通鳥丸下の東堀小路釜殿町	9/13	検出できず。	H L 247	13
八条四坊 六町	下・下之町9-10	7/22	盛土のみ。	H L 149	13
八条四坊 十町	下・上之町14-7	11/15	盛土のみ。	H L 296	13
八条四坊十四町	下・川崎町18 崇仁小学校	7/21	地表下1.78m以下、流れ堆積。	H L 146	13
九条二坊 一町	南・西九条寺ノ前町地先	9/29- 11/25	地表下0.72mにて路面。	H L 238	12
九条二坊 五町	南・西九条河原堀町108、109、110	8/9-18	地表下1.6m以下、泥炭堆積。	H L 174	12
九条二坊十四町	南・西九条春日町34-3	9/1	検出できず。	H L 199	12
九条三坊十一町	南・東九条北鳥丸町1	8/23-24	地表下0.7mにて時期不明の包含層、鎌倉の落込み。	H L 182	13
九条四坊 五町	南・東九条上御霊町40-2	5/10	検出できず。	H L 46	13
九条四坊 五町	南・東九条上御霊町40-1	8/2-6	地表下0.32mにて江戸の包含層。	H L 163	13
#	南・東九条東御霊町36、37、40	9/24-27-28	地表下0.43mにて古墳期の落込み、整穴住居址、室町の包含層。本文29ページ。	H L 228	13
九条四坊 十町	南・東九条河西町-東九条宇賀辺町	4/16-7/23	地表下0.39m以下、路面、江戸の包含層、泥炭堆積。	H L 19	13

太秦地区 (U Z)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図原
広隆寺旧境内	右・太秦柚木町9-7	6/7	盛土のみ。	U Z 84	
常盤仲之町遺跡	右・常盤東ノ町16-4	7/21	巡回時、工事終了。	U Z 143	
常盤東ノ町古墳群	右・太秦一ノ井町32-14、32-24	11/5-15	地表下0.2mにて時期不明の包含層。	U Z 291	
#	右・常盤村ノ内町8-6、84、85、91	10/6-13	検出できず。	U Z 249	
#	右・常盤馬塚町10-3	7/14	盛土のみ。	U Z 135	
仁和寺院家跡	右・宇多野御屋敷町1-5他	4/5-9	全域で平安後期の埋地堆積、平安後期の井戸、版築状遺構。本文33ページ。	U Z 5	
#	右・常盤森町地内	11/10, 12/1	盛土のみ。	U Z 294	
門田町遺跡	右・太秦森ノ前町22-3	10/19	検出できず。	U Z 262	

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨水口町～下鴨南芝町他地内	5/6, 6/25	地表下0.4mにて時期不明の道路、渡路の西層、氾濫堆積。	RH40	
"	北・上賀茂石計町76-2	5/10	検出できず。	RH51	
"	北・上賀茂御園口町～今井河原町他地内	5/17-8/19	地表下0.3m以下、氾濫堆積、時期不明の整地層。	RH57	
"	北・上賀茂柳ヶ堰内町67	6/24-25	盛土のみ。	RH107	
"	北・上賀茂藤田町55-3	8/30	盛土のみ。	RH192	
"	北・上賀茂藤田町80-1	9/13	検出できず。	RH217	
"	北・上賀茂向繩寺町18、13	10/12-14	地表下0.87mにて平安後期の土壌。	RH254	
角社瓦窯跡	北・西賀茂角社町48-10	5/25	盛土のみ。	RH72	
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉下在地町地内	4/21-27 5/6	検出できず。	RH34	
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町672の一部	11/5-8	検出できず。	RH287	
原谷遺跡	北・大北山原谷純町地先	4/27-8/24	検出できず。	RH33	
相国寺旧境内	上・烏丸通上立売上る相国寺門前町647-23 烏丸中学校	6/24-25	地表下0.2mにて室町の土壌、包含層、落込み。	RH105	
大宮北山/前瓦窯跡	北・大宮北山/朝町25-2	11/5-8	地表下0.2mにて時期不明の包含層。	RH288	
北野遺跡	北・平野八丁柳町43-3	8/2-9	地表下0.2mにて鎌倉～室町の包含層。	RH159	
北野庵寺	北・北野下白梅町3-1	10/22-25	検出できず。	RH270	
北野遺跡					
東条第跡	上・大宮通一条上る西入栄町649	10/26-28	盛土のみ。	RH280	
"	上・一条通淨福寺東入北新在家町320	11/19-22	盛土のみ。	RH308	

北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一乗寺西邊地町遺跡	左・一乗寺西邊地町19 西邊地児童公園	11/5-12-26	地表下1.4m以下、流れ地積。	KS281	
北白川鹿寺	左・北白川上別当町23	7/21-22	地表下0.58m以下、飛鳥～奈良の包含層、時期不明の土壌。	KS144	
"	左・北白川大堂町47-1	8/24、9/3	地表下0.62m以下、室町の包含層。	KS185	
"	左・北白川山田町9	8/25-30	検出できず。	KS186	
京都大学北部	左・北白川高町22、23-1	11/8	地表下0.43mにて鎌倉の整地層。	KS283	
構内遺跡					
京都大学教養部	左・吉田中大路町1-12	4/16-19	検出できず。	KS18	14
構内遺跡					
華勝寺跡	左・登龍院山王町28-35、46	12/8	盛土のみ。	KS334	14
岡崎遺跡					
最勝寺跡	左・岡崎通、二条通～蹴水他地内	8/19-26-30	地表下0.71m以下、弥生の包含層、時期不明の包含層。本文38ページ。	KS173	14
岡崎遺跡					
法勝寺跡	左・岡崎南御所町地先	12/16	返国時、工事終了。	KS341	14
岡崎遺跡					
"	左・岡崎法勝寺町118-4	9/7	検出できず。	KS209	14
白河北殿跡	左・東九太町29-5・21	8/23	地表下0.55mにて室町の耕土層。	KS180	14
"	左・東九太町30-4	10/19-20	地表下0.44m以下、平安後期～末期の	KS261	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
白河南殿跡	左・岡崎徳成町6-5	9/24	土壌、時期不明の包含層、土壌。	K S 227	14
白河街区跡	左・聖福院川原町12-18	4/26	地表下0.25mにて時期不明の包含層。	K S 30	14
＃	左・吉田近衛町26-91	8/26-27	地表下1.15m以下、泥濘地積。	K S 190	14
＃	左・吉田近衛町26-76	8/27	地表下0.88mにて平安末期～鎌倉の落込み。	K S 191	14
＃	左・岡崎入江町1-1 錦林小学校	8/27, 9/20	地表下0.7mにて時期不明の包含層。	K S 193	14
＃	左・聖福院蓮華庵町56-11・12	9/10-13	壙土のみ。	K S 212	14
白河街区跡	左・岡崎入江町44-10	10/25	地表下1.0mにて室町～江戸の包含層。	K S 275	14
岡崎遺跡			地表下0.7m以下、桃山～江戸の包含層。		
法成寺跡	上・荒神口通寺町東入荒神町105、103他	5/27	地表下0.68m以下、室町の落込み、時期不明の包含層、土壌。	K S 74	
＃	上・広小路通寺町東入東桜町3-2・3・4	9/27	地表下0.5m以下、流れ地積。	K S 234	

洛東地区 (R T)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
中臣遺跡	山・栗柄野狐塚町5-1他	4/2	検出できず。	R T 3	
＃	山・勧修寺平田57 勧修寺小学校	4/12, 5/6	壙土のみ。	R T 11	
＃	山・勧修寺西金ヶ崎39-2	4/19-20	検出できず。	R T 21	
＃	山・栗柄野藪ノ木町2-20	4/23	検出できず。	R T 27	
＃	山・栗柄野藪ノ木町2-19	4/23	検出できず。	R T 28	
＃	山・勧修寺東栗柄野町4-24	5/13	検出できず。	R T 48	
＃	山・東野舞台町65-9	5/19	壙土のみ。	R T 61	
＃	山・西野山中区町72-39	5/31	検出できず。	R T 78	
＃	山・勧修寺東栗柄野町4-7	7/7	地表下0.3mにて時期不明の包含層。	R T 119	
＃	山・西野山中区町72-73	7/20	巡回時、工事終了。	R T 142	
＃	山・勧修寺東栗柄野町68-16	7/22	検出できず。	R T 150	
＃	山・柳辻番所ヶ口町19-1	9/10	壙土のみ。	R T 213	
＃	山・東野舞台町63-14	9/20	壙土のみ。	R T 224	
＃	山・柳辻番所ヶ口町44-4、8-10	10/18	壙土のみ。	R T 260	
＃	山・勧修寺東栗柄野町4	11/5	壙土のみ。	R T 282	
＃	山・栗柄野打地町14-8	11/19	壙土のみ。	R T 307	
＃	山・西野山中区町72-73	11/30	壙土のみ。	R T 325	
六波羅政庁跡	東・本町一丁目～本町新六丁目	6/15～7/26	地表下0.7m以下、時期不明の跡面。	R T 95	
＃	東・五条通南側、問屋町通～東大路通他地内	6/21～10/21	地表下0.5m以下、江戸の包含層、流れ地積。	R T 104	
＃	東・大黒町305-1・2	9/20-24	地表下1.11m以下、整地層、平安後期～末期の落込み。本文40ページ。	R T 225	
＃	東・上海屋町189	10/18-21	地表下1.4mにて時期不明の包含層。	R T 259	
法住寺殿跡	東・泉涌寺門前町22-8	7/30, 8/4	検出できず。	R T 158	
＃	東・東瓦町964 智積院	8/19～9/2	地表下1.18m以下、室町・江戸の包含層、桃山～江戸の井戸。本文43ページ。	R T 176	

伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
伏見城跡	伏・西町389、389-5	4/6-7	地表下1.29mにて崖の井戸状の落込み。	FD8	
"	伏・竹中町609	5/7	検出できず。	FD45	
"	伏・桃山町三河53-1	5/17	盛土のみ。	FD59	
"	伏・桃山羽楽長吉中町54	5/26	検出できず。	FD71	
"	伏・桃山羽楽長吉中町39、39-33	6/10	地表下0.82m以下、整地層。	FD86	
"	伏・新町三丁目476-1	6/10-22	地表下0.2mにて平安後期～末期の包含層。	FD87	
"	伏・桃山紅雲町174	6/11	盛土のみ。	FD93	
"	伏・桃山町伊庭36	6/17、8/18	返却時、工事終了。	FD97	
"	伏・西大手町307-30・132	7/12-14-15	地表下1.87mにて時期不明の包含層。	FD128	
"	伏・新町五丁目509-3	7/14-16	地表下1.07mにて時期不明の包含層。	FD131	
"	伏・新町四丁目465-5・8	8/23-26	地表下0.9mにて奈良～平安の落込み。	FD183	
"	伏・桃山町永井久太郎官有地	9/27-29	検出できず。	FD233	
"	伏・両替町三丁目339	9/28	地表下0.97m以下、江戸の包含層。	FD237	
"	伏・深草大亀谷万結齋町130-12	10/7	盛土のみ。	FD248	
"	伏・桃山町鍋島1-25	10/8-15	検出できず。	FD250	
"	伏・桃山町松平坂前10-3	10/13-15	地表下0.65mにて桃山の包含層、金箔瓦あり。本文45ページ。	FD251	
"	伏・桃山長岡越中南町85-1	10/25-27	検出できず。	FD271	
"	伏・丹後町142 南浜小学校	10/26	盛土のみ。	FD272	
"	伏・深草中ノ島町42-3・8	11/19	検出できず。	FD306	
"	伏・両替町九丁目270	11/29、 12/1	盛土のみ。	FD316	
"	伏・上油掛町38-1・2	11/30	地表下0.61m以下、時期不明の整地層、江戸の包含層。	FD326	
"	伏・新町五丁目509-1	12/13-22	地表下0.44mにて時期不明の土壌、包含層。	FD337	
極楽寺跡	伏・深草極楽寺町71-2	7/5	検出できず。	FD114	
おうせんどう庵寺跡	伏・深草谷口町37、36-1	11/12	埋土のみ。	FD292	
向島城跡	伏・向島本丸町49-2・3	6/28、7/1	地表下0.5mにて西へ下がる落込みの屑口。	FD110	
"	伏・向島本丸町地先	9/29～12/3	地表下0.55mにて南下がりの落込み、池の片口、向島城の本丸の積土。	FD241	

鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
鳥羽離宮跡	伏・中島宮ノ前町29-11	4/30	検出できず。	TB38	15
"	伏・竹田内畑町118	7/3-5	築地の石段、西側2段、東側1段。上部の石段を取り上げる。	TB113	15
"	伏・中島堀端町46	7/19	地表下0.34mにて整地層をきって礎石3個検出。	TB140	15
"	伏・中島河原田町111	7/29	盛土のみ。	TB156	15
"	伏・中島河原田町1-14	8/5	盛土のみ。	TB164	15

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
鳥羽羅宮跡	伏・竹田橋ノ井町62-3	11/22	検出できず。	T B310	15
下鳥羽遺跡	伏・北端町3	7/9	検出できず。	T B126	15
＊	伏・竹田松林町16、23	12/9-15	地表下1.65m以下、時期不明の包含層。	T B330	15
下鳥羽遺跡隣接地	伏・祐部町44-3	12/20	巡回時、工事終了。	T B346	15
深草遺跡	伏・深草キトリ町32-13	8/31	地表下0.6mにて東西方向の流し堆積。	T B197	
＊	伏・深草西瀬町四丁目54	11/18、12/1	地表下1.16mにて時期不明の土層、落込み。	T B304	
＊	伏・深草西瀬町四丁目68	12/17	検出できず。	T B343	
西飯食遺跡	伏・深草西飯食町71	5/6	地表下0.61mにて時期不明の包含層、南北方向の落込み。	T B43	
唐橋遺跡	南・吉祥院九条町33	7/14-19	検出できず。	T B130	
＊	南・唐橋川久保町29-4	10/22	地表下0.43mにて包含層。	T B267	
津田城跡	伏・横大路下三梧城ノ前町22-1	7/28	地表下2.21m以下、湿地堆積。	T B154	

南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
草場館跡	西・川島玉頭町40-14	6/28	盛土のみ。	MK111	
上久世遺跡	南・久世上久世町592	5/12-19	地表下0.54mにて堂町の土境。	MK52	
中久世遺跡	南・久世中久世町五丁目31	5/12-31	検出できず。	MK53	
＊	南・久世中久世町二丁目119-1、118	6/8	巡回時、工事終了。	MK82	
＊	南・久世中久世町三丁目62-1	6/10	検出できず。	MK90	
＊	南・久世中久世町三丁目105	10/22、11/1	地表下1.8mにて弥生の土層、柱穴、住居社の可能性あり。	MK268	
福西古墳群	西・大枝長町地先	11/2	検出できず。	MK279	
法華山寺跡	西・御陵崎ヶ堂	9/2	盛土のみ。	MK201	

長岡京地区 (NG)

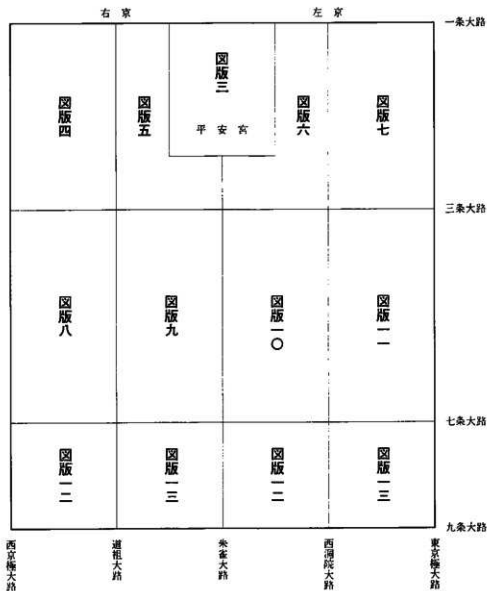
遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
長岡京跡	伏・羽東師斐川町311-5・6、312-5・6	4/9	検出できず。	NG10	
＊	西・大原野上里北ノ町、南ノ町地内	4/12、5/7-10	地表下0.7mにて時期不明の溝。	NG13	
＊	伏・羽東師志水町134-3、135-1	5/19	検出できず。	NG65	
＊	伏・納所和泉屋7	5/20-25	地表下0.65m以下、湿地状堆積。	NG67	
＊	伏・羽東師志水町128-2	5/31	盛土のみ。	NG73	
＊	伏・羽東師斐川町168-1	6/15-16-18	地表下0.52mにて南北方向の溝状遺構の西側。	NG91	
＊	伏・羽東師古川町425-4	6/18-21	検出できず。	NG102	
＊	西・大原野上里北ノ町689の一部	7/1	地表下0.12mにて時期不明の包含層。	NG112	
＊	伏・羽東師斐川町221他	7/9-16	検出できず。	NG125	
＊	南・久世熊山町460-1	7/27	検出できず。	NG153	
＊	伏・淀本町173-79地7筆	9/16	巡回時、工事終了。	NG218	
＊	伏・羽東師斐川町339-2	9/24	検出できず。	NG232	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
長岡京跡	伏・淀本町174-69	10/20	地表下0.8mにて流城の溝、敷地南側で6本の柱列。	NG266	
"	伏・羽東御古川町333他	10/22・25	検出できず。	NG269	
"	伏・淀本町217	11/15・12/9	検出できず。	NG298	
"	西・大原野上里北ノ町、南ノ町他地内	11/12	検出できず。	NG300	
長岡京跡隣接地	伏・羽東御志水町111-1、112-1、113-1	7/16	検出できず。	NG139	

图 版

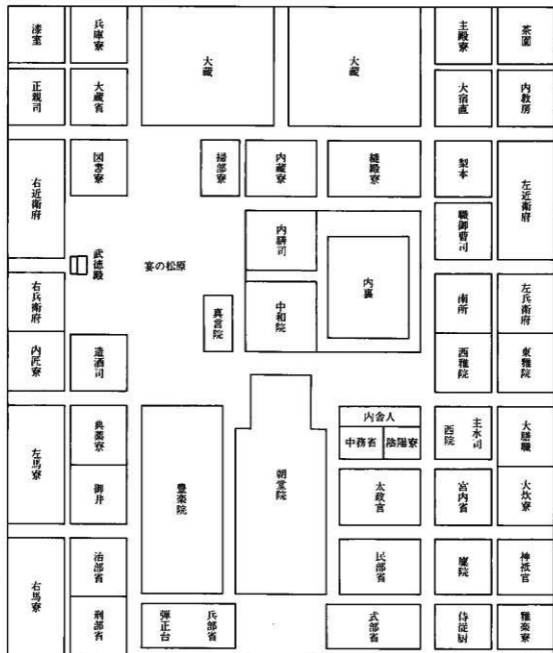
調査地点位置図

平安京図葉分割図



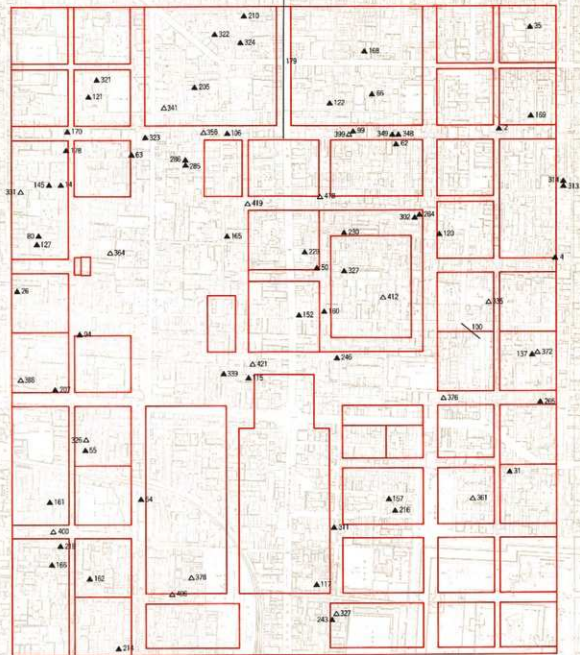
凡例

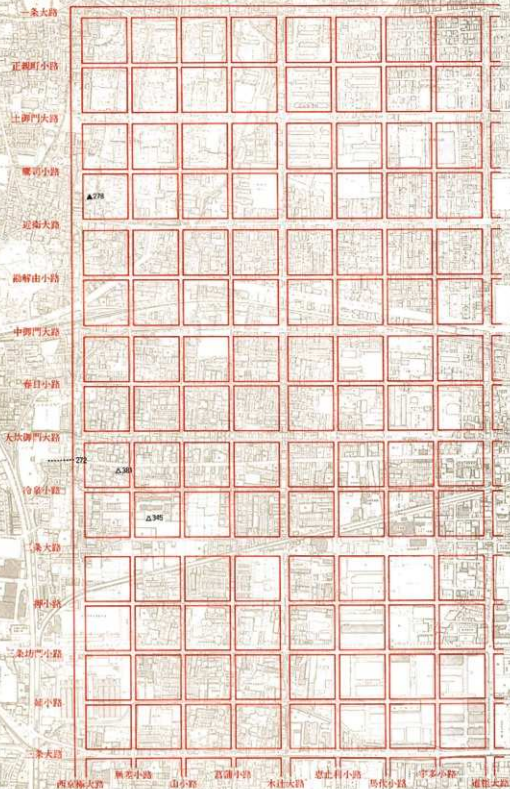
- △…………… 1992年度立会調査地点 ▲—— 1993年度立会調査地点
 - - - - - 遺跡範囲



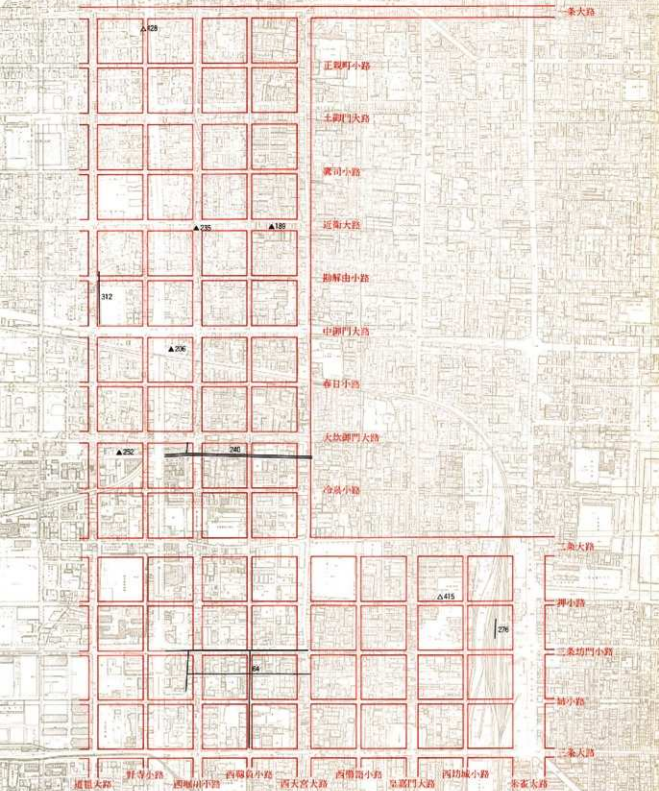
平安宮城概念図

平安宮





右京北邊一、二、三條



道羅大路 野寺小路 西堀川平路 西堀川小路 西大宮大路 西堀川小路 皇嘉門大路 西坊城小路 朱雀大路

一条大路

▲337

正觀町小路

上御門大路

廣司小路

近衛大路

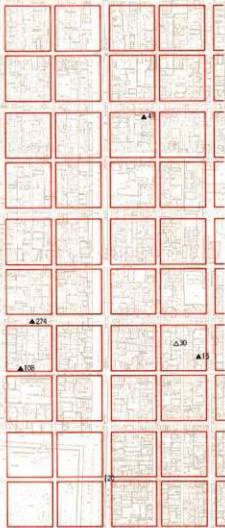
勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路



▲274

△30

▲15

▲108

120

二条大路

押小路

三条坊門小路

師小路

三条大路



△308

120

△306

▲414

▲120

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

備前小路

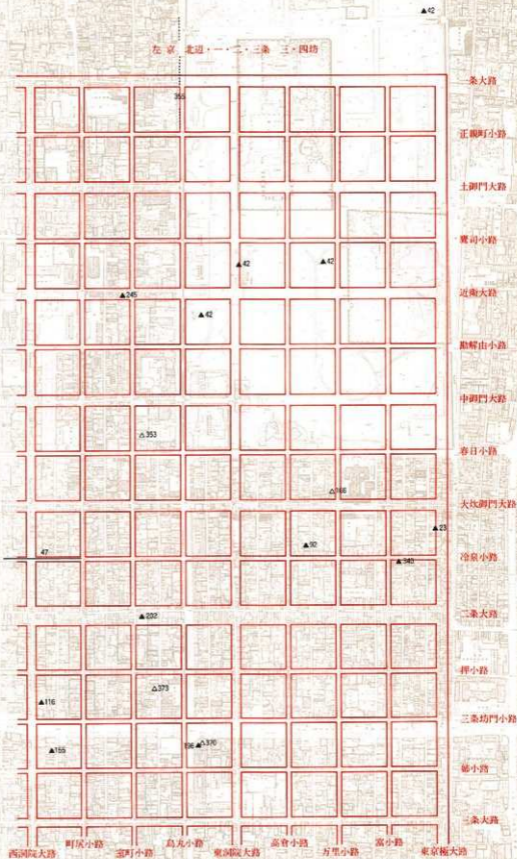
大宮大路

播磨小路

龍川小路

油小路

西洞院大路



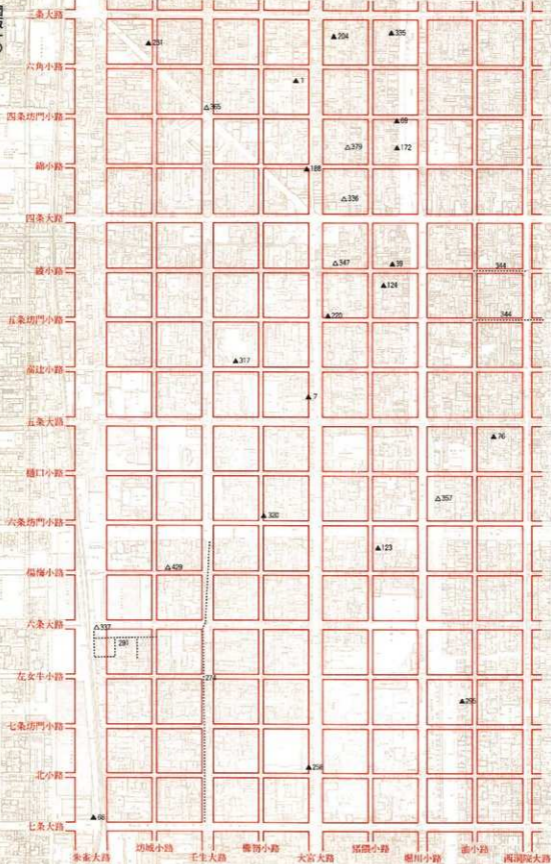
左京北道・一・二・三条 三・四坊

桑大路
正觀町小路
土御門大路
實司小路
道衛大路
船解山小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三條坊門小路
砂小路
二条大路

西洞院大路 町尻小路 高丸小路 東洞院大路 高倉小路 万里小路 富小路 東京極大路

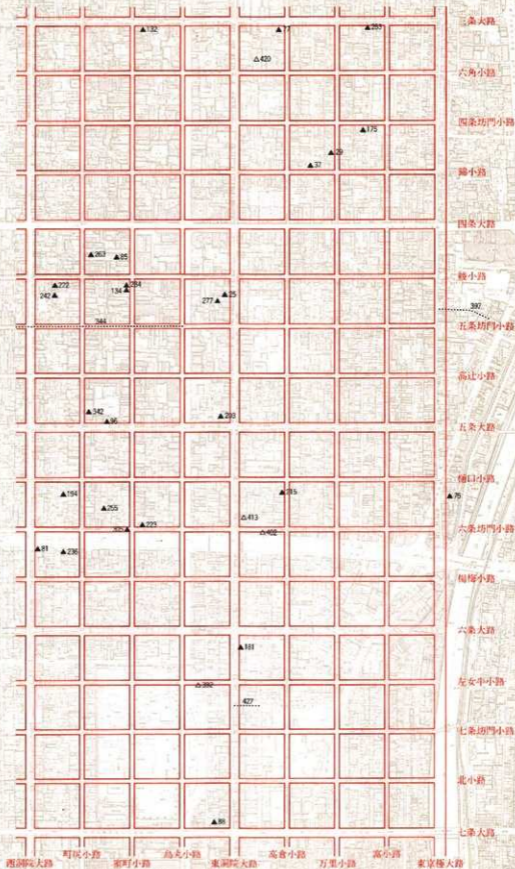
左京 四・五・六・七条 一～三坊

図版
一〇

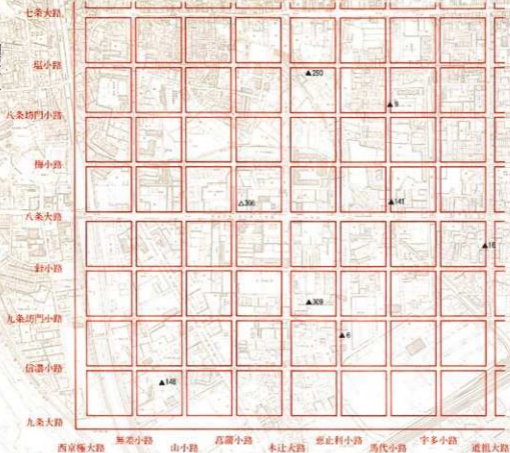


左堂 四·五·六·七条 三·四坊

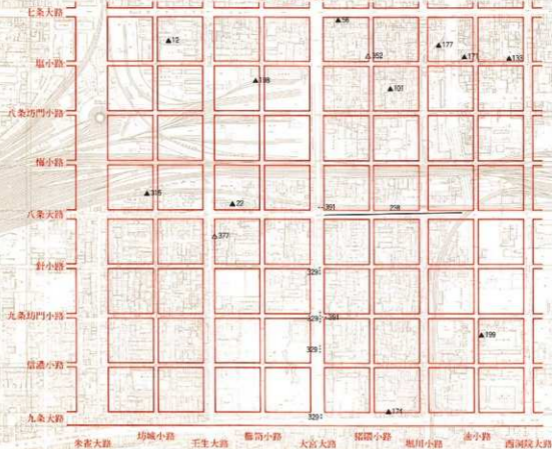
圖版
一一



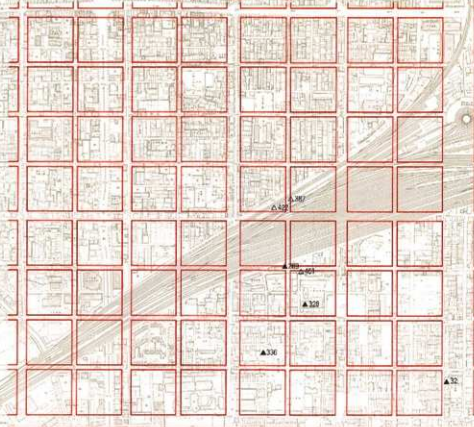
右京·八·九条三·型坊



左京·八·九条三·型坊



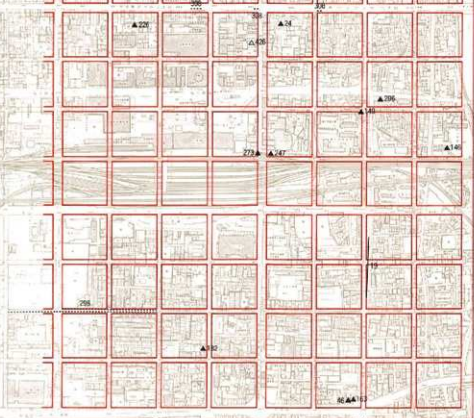
右京 八・九条 坊



七条大路
堀小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路

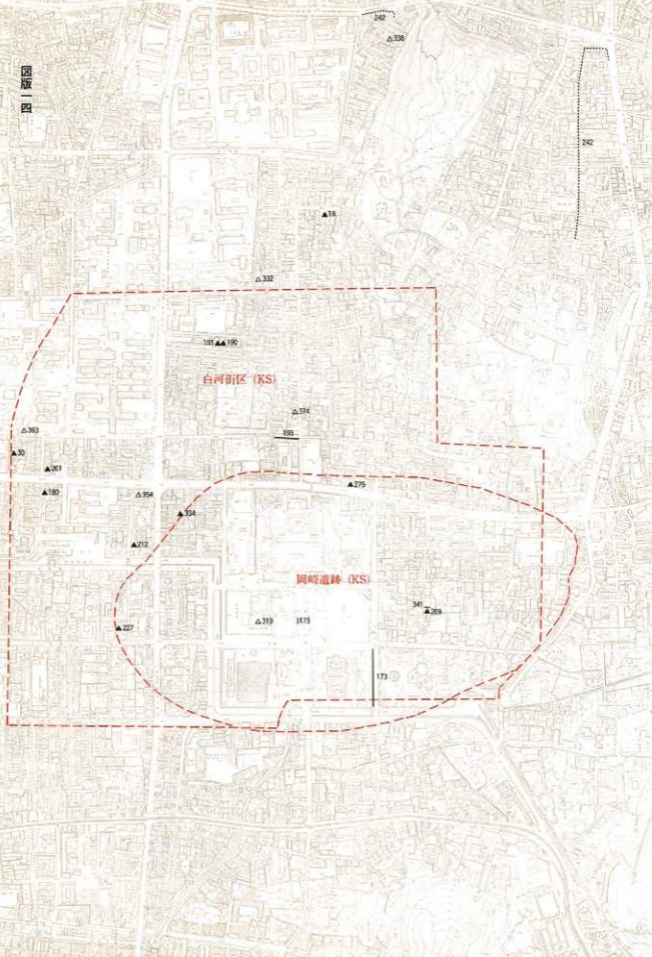
道頓大路 野寺小路 西堀川小路 西欄外小路 西大宮大路 西御道小路 皇藏門大路 西坊城小路 和倉大路

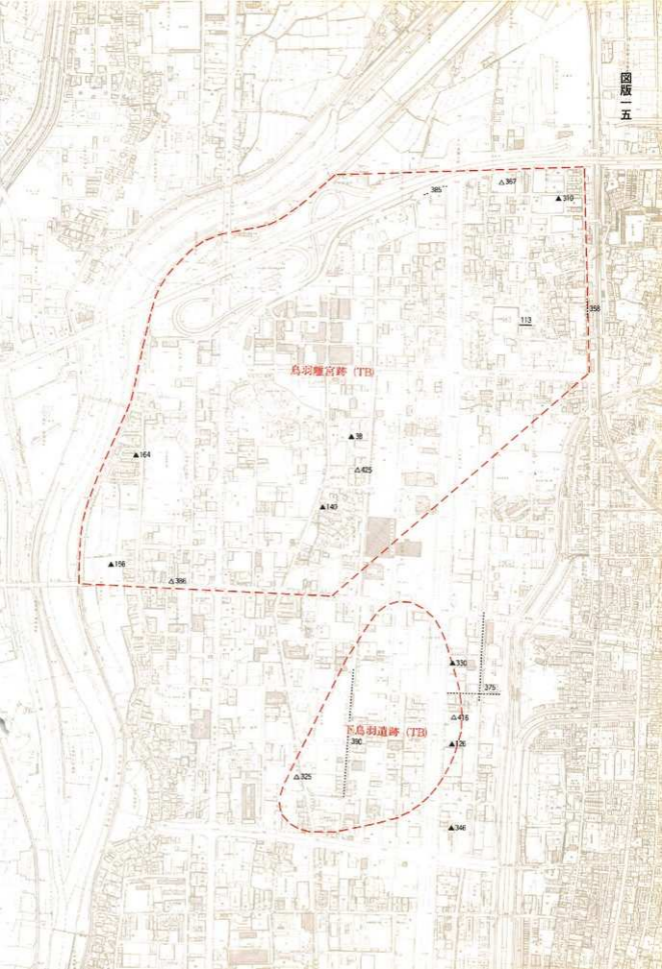
左京 八・九条 坊



七条大路
堀小路
八条坊門小路
堀小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路

西御道大路 町尻小路 堀川小路 堀外小路 東御道大路 高倉小路 万葉小路 堀小路 東宮極大路





烏羽離宮跡 (TB)

下烏羽遺跡 (TB)

▲164

▲156

▲396

▲140

▲38

▲425

▲397

▲310

385

350

113

▲330

375

▲418

▲130

▲346

▲325

300



1 鬼瓦

1



2 軒平瓦

2



3 軒平瓦

3



4 軒平瓦

4



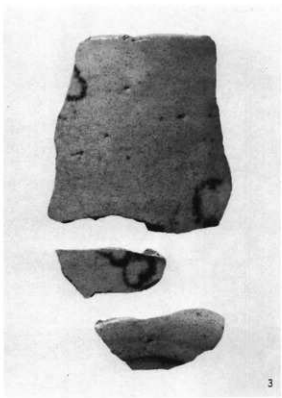
1 調査地全景 (東から)



2 柱穴検出状況 (西から)



1 No.1 地点断面 (北東から)



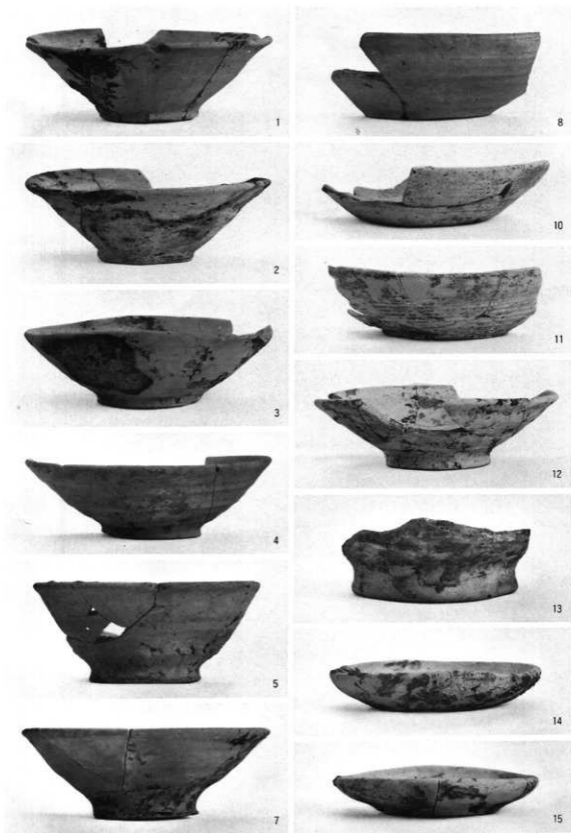
2 No.1 地点 黄瀬戸 (1・2), 志野 (3)



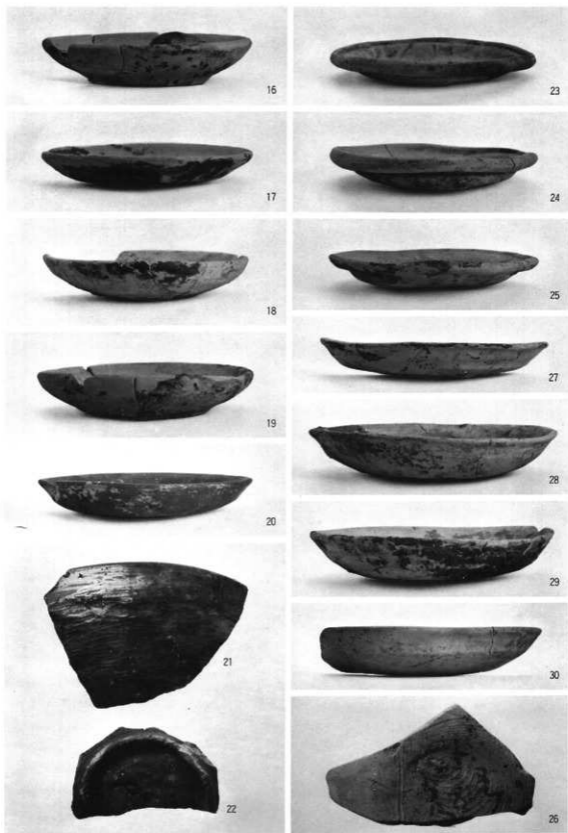
1 調査区全景(南から)



2 井戸下層断面(東壁)



土師器碗(1~13), 皿(14・15)



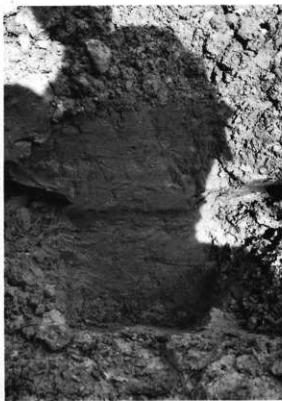
土師器皿 (16~19, 23~25, 27~30), 瓦器皿 (20)・碗 (21・22), 墨書土器 (26)



1 No.5 地点調査風景 (西から)



2 No.3 地点断面 (北東から)



3 No.5 地点断面 (西から)



3



4



5



6



9



7



8

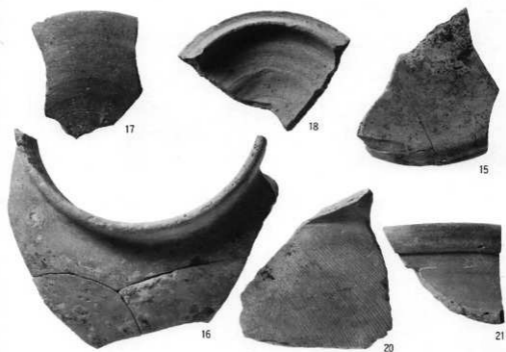
No 5 地点 弥生土器壺(7)・甕(3~6, 8・9)



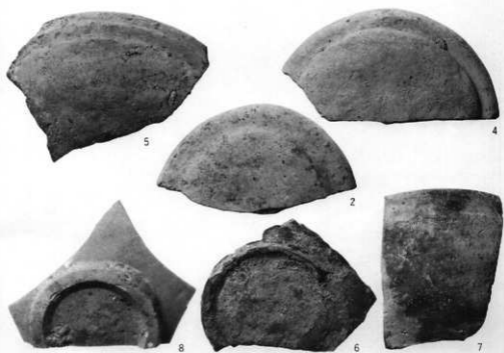
1 No.3 地点断面 (北西から)



2 No.5 地点断面 (東から)



1 No.2地点(流路) 土師器蓋(15)・壺(16)・婁(20), 須恵器杯蓋(17)・杯身(18)・壺(21)



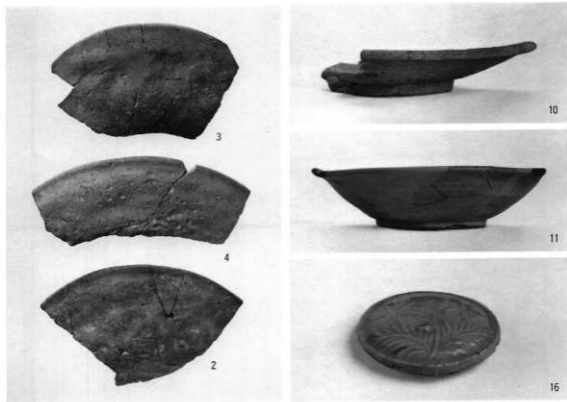
2 No.5地点(溝) 土師器皿(2・4・5), 瓦器碗(6・7), 白磁碗(8)



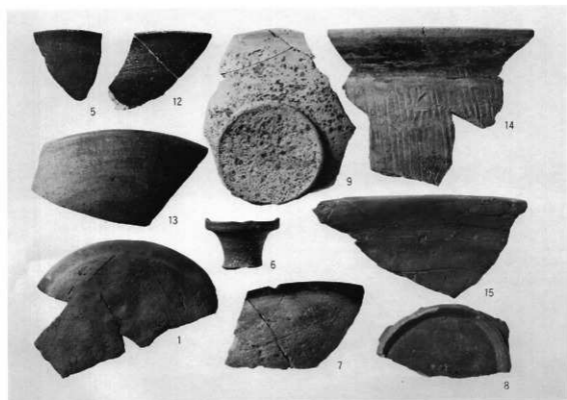
1 No. 2 地点路面断面 (南から)



2 No. 2 地点土塙断面 (西から)



1 SK 1 土師器皿(2~4), 緑釉陶器皿(10)・碗(11), SK 2 青白磁蓋(16)



2 SK 1 土師器(1・14), 須恵器(5・6), 黒色土器(7・8), 緑釉陶器(9・12・13), SK 3 土師器(15)



1 No.4 地点断面 (南から)



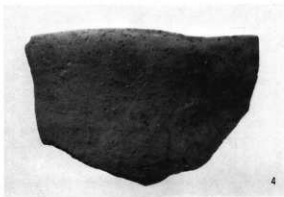
2



1



3

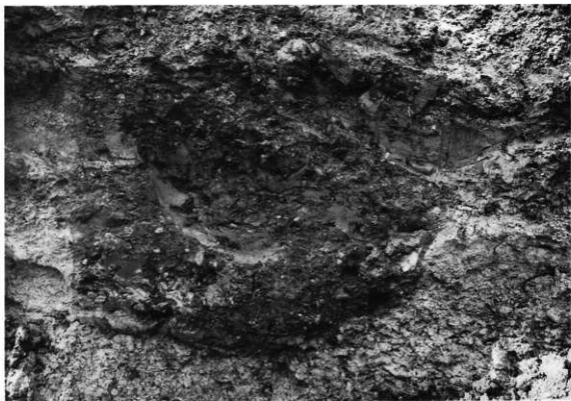


4

2 No.3 地点 須恵器杯身 (1)・杯蓋 (2), 土師器甕 (3)・器種不明 (4)



1 井戸 (B) 断面 (南から)



2 井戸 (C) 断面 (南から)



1 柱根

16



2 柱根

17



3 柱根底部

16



4 柱根底部

17



5 軒平瓦

15



6 軒平瓦のヘラ描き

15



1 調査風景(北から)



2 No. 3地点断面(北から)



1



3



2



4

3 No. 3地点 軒丸瓦(1~3), 軒平瓦(4)



1 No.1地点断面(東から)



2 No.3地点断面(東から)



4



5



6



2



1

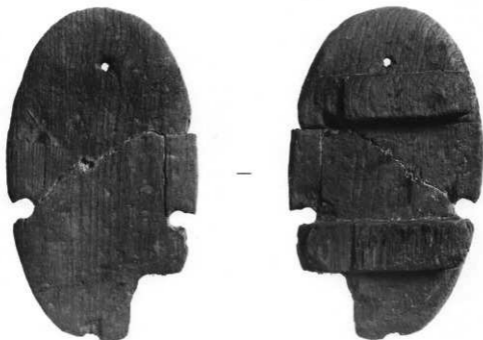


7



8

3 No.1地点 土師器皿(1・2・4), No.3地点 土師器皿(5・6), 瓦器椀(8)
No.4地点 白磁皿(7)



9



11



|



|



13



10

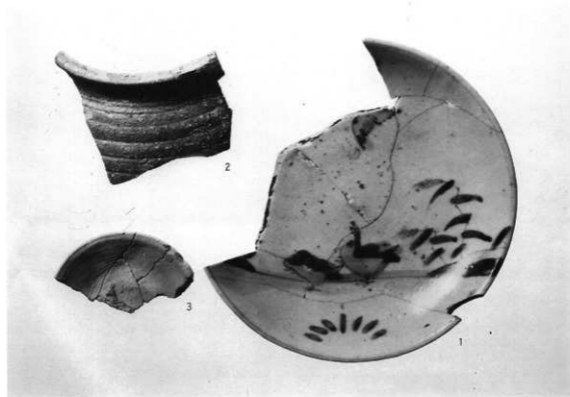
木製品 No 1 地点 用途不明品 (13), No 3 地点 下駄 (9), No 4 地点 木球 (10), 鐏形 (11)



1 井戸検出状況(北東から)



2 井戸枠検出状況(東から)



3 井戸内 染付皿(1), 陶器壺(2), 土師器(3)



1 調査地全景 (北から)



2 No.4 地点断面 (北西から)

8



6



9



10



1



2

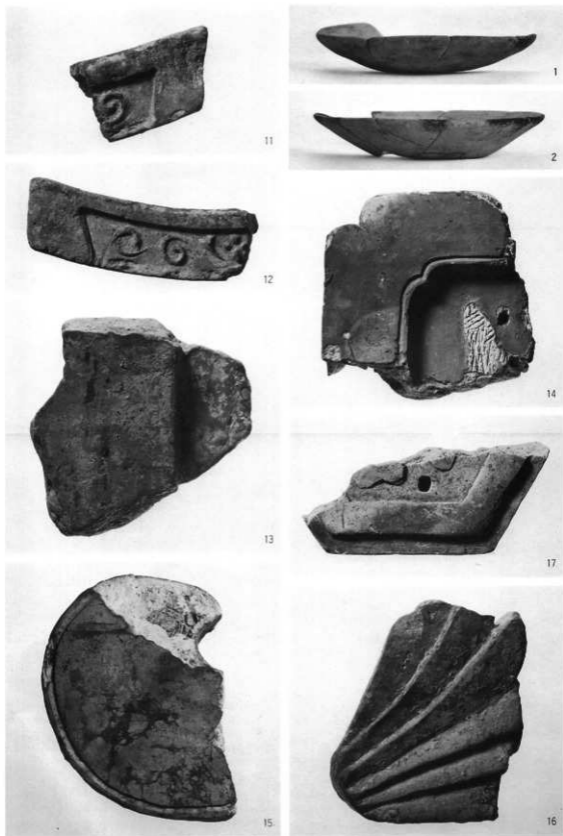


3



4





No.4地点 軒平瓦(11・12)、鬼瓦(13-15)、鯉瓦(16)、飾瓦(17)、土師器皿(1・2)



1 SD 3・4完掘状況 (北から)



2 弥生時代全景 (北西から)



3 遺物出土状況 (西から)



4 SD 2 遺物出土状況 (東から)



2

1



14

5



4



10

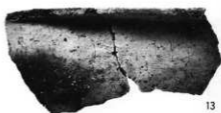


8

SX1 弥生土器壺(1・2・5・8・10)・甕(14)・蓋(4)



11



13



6



7



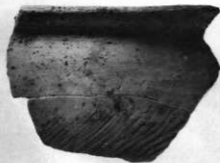
16



9



15



17



19

SX1 弥生土器壺(9)・甕(6・7・11・13)

SD2 弥生土器壺(15)・甕(16・17)・器台(19)

京都市内遺跡立会調査概報
平成5年度

発行日 平成6年3月31日
発行 京都市文化観光局
住所 京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都会議内
編集 (財)京都市埋蔵文化財研究所
住所 京都市上京区今出川大宮東入元伊佐町265-1
TEL (075) 415-0521
印刷 真 陽 社